



# 東京歯科大学広報



## 第117回卒業証書・学位記授与式

第117回卒業証書・学位記授与式が、平成24年3月16日（金）午前10時より、千葉校舎講堂において挙行政され、第117期卒業生128名がそれぞれの希望を胸に新しい世界へ羽ばたいて行った。



2012年2・3月

253号

### 本号の主な内容

- ・第117回卒業証書・学位記授与式 ..... 1
- ・水道橋病院2階総合診療室完成式 ..... 10
- ・さいかち坂校舎竣工 ..... 11
- ・平成23年度口腔科学研究センターワークショップ開催 ..... 18
- ・教職員への移転関係報告（10）・（11） ..... 26、27
- ・歯科衛生士専門学校第61回卒業証書授与式挙行政 ..... 34

式は、本学混声合唱部による校歌斉唱の後、佐藤 亨学生部長の開式の辞へと進行して厳粛な卒業式が開始された。

柳澤孝彰副学長の学事報告に続いて、河田英司教務部長の呼名により128名の卒業生が緊張した面持ちで井出吉信学長へ感謝の一礼をした。最後に卒業生128名の総代として根木沙枝子さんが井出学長から卒業証書の授与を受けた。

続いて褒賞各賞の受賞(受賞者はp8・9に記載)は、学長賞に根木沙枝子さんが選ばれて賞状及び金メダルの授与を受けた。血脇賞は受賞者4名を代表して石川宗理君が、精励賞は受賞者11名を代表して高橋真緒さんが、卒業論文賞は受賞者8名を代表して小川 真君が、それぞれに賞状及び金メダルの授与を受けた。また、平成20年にご逝去された故井上 裕前理事長のご遺徳を受けて設置された「井上 裕賞」は池田朋子さんに授与された。

その後、井出学長が卒業生へ告辞を述べられ、金子 譲理事長、矢崎秀昭同窓会会長が祝辞を贈られた。また、在校生を代表して木村基善君(5年)から送辞が読み上げられ、これに応じて卒業生代表の根木沙枝子さんが答辞を述べた。

最後に久保周平講師(口腔健康臨床科学講座)の指揮、安岡はるかさん(4年)の伴奏により全員で校歌を斉唱し、第117回卒業証書・学位記授与式は閉会した。

引き続き記念品贈呈式が行われ、大学、同窓会、父兄会からそれぞれ卒業生へ、卒業生一同から大学へ記念品が贈呈された。

その後、卒業生は体育館2階アリーナへ移動して恩師と共に記念撮影が行われた。そして、第4教室にて石井拓男副学長から卒業生一人一人に卒業証書、ならびに褒賞受賞者に賞状・金メダルが授与され、全ての行事が終了した。



卒業生を代表して井出学長から卒業証書を授与される根木沙枝子さん：平成24年3月16日(金)、千葉校舎講堂



告辞を述べる井出学長：平成24年3月16日(金)、千葉校舎講堂



金子理事長より卒業生への祝辞：平成24年3月16日(金)、千葉校舎講堂



血脇賞受賞者を代表して賞状とメダルを授与される石川宗理君：平成24年3月16日(金)、千葉校舎講堂



井上 裕賞を受賞し、賞状とメダルを授与される池田朋子さん：平成24年3月16日（金）、千葉校舎講堂



精勤賞受賞者を代表して賞状とメダルを授与される高橋真緒さん：平成24年3月16日（金）、千葉校舎講堂



卒業論文賞受賞者を代表して賞状とメダルを授与される小川 真君：平成24年3月16日（金）、千葉校舎講堂



教室に戻り石井副学長から卒業証書を手渡される卒業生：平成24年3月16日（金）、千葉校舎第4教室

## 学事報告

東京歯科大学

副学長 柳澤 孝彰

現在、本学に在籍する学生は、827名であります。

これらの学生の教育については、専任者として教授55名、准教授53名、講師73名、助教125名、助手1名の合計307名、このほかに臨床教授等、嘱託教員、客員教員および非常勤講師、合わせて497名が担当しております。

本日、第117回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、前記在籍者のうち128名であります。これを大学設置以来の卒業生と合わせますと8,475名、専門学校設置以来の卒業生と合わせますと14,448名となります。

なお、高山歯科医学院創立以来の卒業生を通算しますと14,779名となります。

平成24年3月16日

## 告 辞

東京歯科大学

学 長 井出 吉信

第117期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。東京歯科大学の教職員を代表してお慶びを申し上げます。また、本日、卒業式を挙行するにあたり、ご来賓、保護者のご出席を賜り、深く感謝申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。

皆さんが本学に入学された平成18年には、歯科医師免許取得後に一年間の臨床研修制度がスタートした年でもあります。今年度で6年目となりますが、本学三附属病院の臨床研修プログラムも大変充実し、毎年多くの卒業生が研修されています。これから皆さんは、本学または他大学等の臨床研修施設において一年間の臨床研修を受けることとなりますが、本学で学んだ知識と技術、そして6年間で培った医療現場でのコミュニケーション力を臨床研修の場でさらに磨き上げ、国民に信頼される歯科医師を目指していただきたいと思います。

大きな被害をもたらした東日本大震災から1年が経ちました。この震災における被災地での支援活動においては、全国から多くの歯科医師が身元確認作業や歯科医療活動に尽力されました。被災地での歯科医師の役割は大きく、避難生活をされる方々の健康を支える上で、歯科治療や口腔ケアの重要性が再認識されました。口腔衛生状態を保ち、口腔機能をより良く維持できることが、全身の健康を支える上でも欠かせないことは言うまでもありません。すでに超高齢社会を迎えたわが国では、口腔ケア、摂食・嚥下機能の維持・改善、在宅での歯科治療など、歯科医師の役割は益々広い分野にわたり求められることとなります。

東京歯科大学は平成22年に創立120周年を迎えました。その記念事業として大学中枢の水道橋への移転が進められております。本年4月には「さいかち坂校舎」を開校し、皆さんの後輩となる新入生を迎え、水道橋キャンパスを中心とした東京歯科大学が新たにスタートすることとなります。卒業生におかれましては、これからも本学同窓として、末永く母校の発展を温かく見守っていただければと思います。さらに、今後も生涯教育の場として母校を大いに利用していただきたいと思います。教育・研究・臨床の拠点として都心に構える水道橋キャンパスと、それぞれに最新の設備を備えた三つの附属病院が、皆さんの将来を支えます。常に歯科医療は進歩していきますので、生涯学ぶ姿勢を持ち続けて下さい。そのことが後輩への良い励みにも繋がると思っております。

最後になりますが、皆さんの今後のご活躍を祈念いたしますと共に、改めてお祝いを申し上げまして、告辞といたします。

## 祝 辞

学校法人東京歯科大学

理事長 金子 譲

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

本日、祝辞を述べるにあたって、私が皆さんの入学式においてどのような訓辞をしたのか改めて見ましたところ、次の三つのことについて話をしていました。一つは試験には合格すること。二つ目は人間を磨くこと。三つ目は東京歯科大学の学生であるということはどういうことかということです。そして、当時理事長でいらした井上 裕先生が祝辞として、東京歯科大学の血脇イズムの本質について、また市川総合病院が前年に570床に増床になり、20診療科になったことについてご紹介されました。

先ほど、褒賞の授賞がございましたが、当時の入学式において新入生代表で宣誓をした岩脇清一君が、この度血脇賞を受賞されていました。学業の中でも色々とプレッシャーがあったかと思いますが、こ

のように優秀な成績で卒業したということは、素直に成長されてこられたのだと感慨深く思いました。それから、井上 裕賞には池田朋子さんが受賞されましたが、皆さんの先輩である井上先生のご活躍は、よく心に留めておいていただきたいと思います。そして、改めて皆さんへのお祝いと、それからご父兄におかれましては、ご子弟が一人前の端緒に付いたという時を迎えるにあたりまして、心よりお祝い申し上げます。

井出学長が告辞の中で皆さんの今後についてお話をされていましたが、まず皆さんを待っているのは、国家試験合格後に臨床研修を受けるということです。この臨床研修歯科医を言葉のまま受け取ると、皆さんがまだ未熟な技能、知識、技量を実際に役立たせる為の準備期間というような捉え方にもなるのですが、大学からいけば皆さんはもう被雇用者なのです。月給が出ることになります。ですので、学ばされてきたという感覚は本日を以て卒業し、これからは自分で学ぶという気構えになっていただきたいというのが、本日の祝辞の本旨になります。これまで皆さんはこの6年間、東京歯科大学で学ばされてきた、言ってみれば詰め込み型の教育であったと思います。医学の知識はまず覚え込むというところから始まるわけで、その始まりをやってきたわけです。これから覚え込んだ知識を組み合わせ、先ほどお話したような臨床に役立てていく、あるいは研究者になる方はここから正しいものをクリエイトするわけです。勉強という言葉は、強いて勉めさせられるという言葉ですが、これからは勉強ではなく学ぶ、自らが学んでいくということが大切です。学ぶものが自分のものになるのには、やはり興味があるというのが一番であり、これが本物になります。これから皆さんはそれぞれに色々な道があるわけですが、まず、この道をどのように自分は決めていくかということです。準備期間は数年ありますので、この中で学ぶ本質というものを身につけていただきたいと思います。

そこで、次のような言葉があります。「一日の計は朝にあり。一年の計は春にあり。一生の計は少壮の時にあり。」これは安井息軒という幕末から明治初期にかけての儒学者で、この方の有名な言葉です。少壮というのは今、皆さんの年齢の時をいいます。私は本日この席で、また以前に創立120周年記念行事で皆さんが集まった時にもそう思いましたが、18、19才で入学された時と、6年後の皆さんは一変しております。紳士、淑女の気配を漂わせています。それだけ成長したのであらうと思います。

今後、東京歯科大学の建学の精神をよく体得していただいて、ご自分の育った大学で一体何を自分は学んだのだらうと振り返ってみてください。学ぶというのは知識だけではありません。この大学で学んだことを元に、大いに活躍をしていただきたいと思います。その活躍の場は臨床医であったり、研究者であったり、あるいは教育者の方もいらっしゃるかもしれません。非常に幅が広い将来が待っています。今お話した安井先生の言葉のように、計を立てることが大切であらうと思います。その計はやはり自分が好きなこと、これが非常に力を発揮させます。今後1、2年で、その先の将来を決めるときに、もう一つ大学院という道があることを皆さん忘れないでください。研修をしているときに大学院に進むのか進まないのかよく考えていただきたいです。こうして皆さんが歯科医師という職業に就こうというからは、一生学ぶということ以外他にないので、我々は大学院に入って来てくれることを期待します。一生学ぶことが嫌なら、歯科医師をやめてしまった方がいいと思います。

今後の皆さんのご発展ご活躍を祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。頑張ってください。

## 祝 辞

東京歯科大学同窓会  
会 長 矢崎 秀昭

本日ここに第117回の卒業証書授与式に当たり卒業生、ならびに今日まで深い愛情を持って子育てに努められたご父兄の皆さまに、東京歯科大学同窓会を代表して心からお祝い申し上げます。

本日より卒業生の全ての皆さまは、母校と共に長い輝かしい伝統を誇る本学の同窓会の会員となりま

す。我々同窓はもろ手を挙げて皆さまの入会を心から歓迎申し上げます。

今日の日本は一年前おきました大震災、原発事故、さらに少子化に伴う、超高齢社会の到来、など長年に渡る社会の構造的な歪が現実のものとなり、未曾有の国家的な危機に直面しております。

さらに歯科医療界におきましても、歯科大学の一時期の急激な増加などにより、人口に対する歯科医師の需給バランスの崩壊など、一般社会からも歯科界の厳しさが指摘される状況となっています。

しかしながら、人の寿命がいくら長くなったとしても、人間らしく、心身ともに健康な生活ができなくては長寿社会の本質的な意味が有りません。人間は口から、その生きる源となる食物を美味しく、楽しく食べることが健康な生活を維持するうえで最も大切なこととなります。卒業される皆さまが、これから生涯の天職として取り組もうとしている歯科医師の仕事は、まさに、人々の生きる力と健康な生活を支える素晴らしいことです。

120年に及ぶ本学の発展の足取りは、日本の歯科医学の歴史そのものであります。皆さまの先輩となる、本学の同窓の方々は、近代の歯科医療の誕生以来、関東大震災、さらに日本が壊滅状態までなった第二次世界大戦など幾多の困難乗り越え、常に歯科界をリードし、ついに世界に通じる今日の日本の歯科医療を築きあげてまいりました。本日、卒業される皆さまには、この素晴らしい本学の歴史と、同窓生の活躍を引き継ぎ、日本を代表する歯科医師となることを心から願っております。

卒業生の皆さまが研修医を経て、厳しい社会において、理想に燃えて歯科医療に取り組むと時に、困難な事に、多々直面すると思われます。本学の同窓会におきましては、会員お一人お一人とのより強い連携を保ち、出来る限り、同窓の皆さまのお役に立つことを目標に活動しております。

現在、同窓会におきましては先ず医療技術面でのサポート体制として、毎月の様に実習を伴う各種、卒業研修セミナーを開催しています。さらに、日々の診療すぐに役立つ、若手支援セミナーを開催するなど、今後は、特に若手や女性の同窓の方々への支援体制の確立を目指しております。

卒業生の皆さまが社会において素晴らしいご活躍をすることと、東京歯科大学が今後とも歯科大学の雄として発展することを心から祈念し、祝辞と致します。

## 送 辞

在校生代表

木村 基善

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じるこの佳き日、晴れて卒業証書授与式を迎えられた皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

皆様は希望に満ち溢れた心で初めて本学に来られた日から今日まで、多くの出会いや経験をされたと思います。この大学生活を振り返ってみますと、素晴らしい充実の日々を過ごされたことが思い出されるのではないのでしょうか。

今日は六年間という道のりのゴールですが、一方では新しい生活へのスタートでもあります。期待や希望に胸を膨らませている方、あるいは先の見えない不安で押しつぶされそうな方もいるかも知れません。時には大きな苦労や困難に直面することもあるかもしれません。そんな時は積み重ねてこられた知識と経験を信じその上に更に新たな力をつけて歩み続けてほしいと思います。

私達在校生は皆様が本学で歩まれた御姿を模範とし、本学のすばらしい伝統を受け継ぎ精進していくことを誓いより高い志を持って後に続いていけるよう、努力していきたいと思います。

最後になりましたがご卒業される皆様のより一層のご活躍とご健康をお祈り申し上げ贈る言葉とさせていただきます。

## 答 辞

第117期卒業生代表

根木 沙枝子

寒さも徐々にやわらぎ、日増しに春めいて参りました。

本日は、私たちの卒業証書授与式に、ご来賓ならび諸先生方をはじめ多数の皆様のご臨席を賜り、卒業生一同、心より厚く御礼申し上げます。

只今、井出学長の告辞、そして金子理事長はじめご来賓の皆様より励ましのお言葉を頂き、身の引き締まる思いでございます。また、在校生の皆様からは心温まる送辞を頂き、ありがとうございました。

私たちが東京歯科大学に入学したのは今から六年前のことでした。これから始まる大学生活に大きな期待を寄せて千葉キャンパスの正門に立った日のことが、つい先日のごとくに思い出されます。学生生活を振り返ると、私たちは様々なかけがえない経験をして参りました。日々の勉強や課外活動、学校行事はもちろんのこと、在学中に先生方から教えていただいたこと、そして友人と過ごす中で得たことは計り知れず、私たちの今後の人生における貴重な財産です。

あっという間に、時が流れ、今日、無事に卒業の日を迎えることとなりました。今も実感が湧かず、寂しさと嬉しさを同時に感じております。ここまで、頑張ってきたことが出来たのも、励まし続けて下さった先生方のご指導、ご支援は言うまでもありませんが、共に苦難を乗り越えた友人、温かく見守ってくれた家族の支えがあってこそと考えております。

昨年3月11日、東日本大震災が発生し多くの方が犠牲となり、今も混乱が続いています。昨今の社会に目を向ければ、記録的な猛暑や豪雪などの異常気象、少子高齢化、若者の就職難など、時代の変動を感じさせる課題もあります。私たちは、歯科医師過剰が問題視される中、社会に出て行こうとしています。しかし、本学の建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉を忘れることなく、社会に貢献できるように努力していきます。

今日で私たちは六年間の大学生活を終えます。今までは、卒業・国家試験という共通の目標に向かって努力をしてきました。しかし、ここからは128名それぞれが自分で決めた道を歩むこととなります。どの道も決して平坦ではなく、様々な困難が待ち受けていることでしょう。しかし、東京歯科大学の卒業生であることを誇りに、常に最善を尽くし、歩んで参ります。

最後になりましたが、これまでご指導くださいました諸先生方、様々な場面で支えてくださった職員の皆様、温かく見守ってくれた父・母そして家族、そしてまた、私たちの大学生活に関わって下さった全ての方々に改めて深く御礼申し上げます。私たち、卒業生一同は 皆様から受け取った精神を忘れずに、それぞれの道へ進んで参ります。どうか温かく見守っていて下さい、そして時には、変わらぬご指導をお願い致します。これからも期待に応えられる様に精進することをお約束し、また、ゆかりの地東京水道橋へ移転する東京歯科大学の更なる発展を心から祈念して、答辞とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 水道橋キャンパスニュース

## ■水道橋病院2階総合診療室完成式



テープカット風景：平成24年2月9日（木）、水道橋病院2階総合診療室

水道橋病院2階の血協記念ホールならびに合同医局跡のスペースに建設が進められていた「総合診療室」が完成し、平成24年2月13日（月）よりオープンとなった。これに先立ち、2月9日（木）に、完成を記念してテープカットおよび内覧会が開催された。

テープカットは、金子 譲理事長、井出吉信学長、一戸達也水道橋病院長、宮地健夫同窓会理事、株式会社ジーシーの中尾 眞代表取締役社長の5名によって行われた。金子理事長からは、「計画当初からリーマンショックや大災害があって、そのような中での移転事業がハードソフトともに順調に進んでいるのは皆さんの一致団結のお蔭である。これから本格的に移転が行われるが、移転し

た後が問題であり、東京歯科大学の伝統を整理しながら頑張っていくためには皆さんの力が大切である。今後、この新しい総合診療室を患者さんの安全と良い医療という面で大いに活用していただきたい」旨の挨拶があった。

その後、診療室の内覧会が催され、教職員一同が新しい診療室を見学した。オープンを控え、現場で日夜診療準備に追われていた歯科衛生士をはじめとする診療スタッフも、完成した診療室に足を踏み入れ、感慨一入であった。

当面は、総合歯科および口腔外科がこの総合診療室にて診療を行うこととなり、2つの診療科が従来使用していた診療室の改修工事が間もなく始まる予定である。



挨拶する金子理事長：平成24年2月9日（木）、水道橋病院2階総合診療室



2階 総合診療室



■さいかち坂校舎竣工

教職員への移転関係報告(11)(本誌p27)にてご案内の通り、本年4月より開校の「東京歯科大学さいかち坂校舎」(千代田区神田駿河台2丁目)が、平成24年2月末日、無事竣工の運びとなり、3月17日(土)午前10時30分より、さいかち坂校舎6階にて東京歯科大学さいかち坂校舎竣工式を挙行了。法人役員、学務役職者、同窓会、父兄会ほか大学関係者、工事関係者など、約80名出席のもとに神事が厳粛に執り行われ、金子 譲理事長、井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会長、小林一公父兄会常務理事(会長代理)、株式会社日本設計六鹿正治代表取締役社長、清水建設株式会社宮崎隆光専務執行役員の玉串奉奠があり竣工式は無事終了した。

竣工式終了後、会場をTDCビル10階に移して開催した直会では、建築主を代表して金子理事長、井出学長から工事関係者の労をねぎらう挨拶があり、来賓として出席された平野博文(文部科学

大臣)からご祝辞を頂戴した。

そのほか、設計監理者代表として日本設計六鹿社長、施工者代表として清水建設宮崎専務執行役員がそれぞれ挨拶した。

また、矢崎同窓会長からお祝いの品が贈られた後、出席者一同で、水道橋移転計画の第一歩となるさいかち坂校舎の竣工を祝った。



東京歯科大学さいかち坂校舎

さいかち坂校舎断面図



■南北断面

■東西断面

## ■教授定年退職のご挨拶

平成24年3月31日付をもって、水道橋病院口腔健康臨床科学講座 榎石武美教授、市川総合病院内科科学講座 森下鉄夫教授が定年を迎えられ、退職された。

### 定年退職のご挨拶



### 口腔健康臨床科学講座

榎石武美

平成24年3月31日をもって定年退職を迎えました。

昭和50年に大学院を修了後、歯科保存学第三講座の助手を拝命以来、37年間にわたり、臨床、研究、教育に携わりました。無事に定年を迎えることが出来たのは、諸先輩をはじめ関係者の皆様のご指導とご支援のたまものと心より御礼申し上げます。

在任期間中は、石川達也教授および高橋一祐教授に公私にわたりご指導を頂きました。大学院修了時に、石川教授が歯科衛生士専門学校の校長をなさっていた関係で、私も歯科衛生士専門学校の仕事をお手伝いさせて頂くことになりました。複数の教科目の講義や実習を担当しながら、学生部や教務部の仕事、学生のクラス担任もさせて頂きましたことは、とても貴重な経験となりました。平成2年に水道橋病院の新築にあたり、保存科主任（後に科長）を拝命後は新水道橋病院で臨床を主に力を注ぐこととなり、その後、総合歯科の主任（科長）、スポーツ歯科の科長を兼任いたしました。さらに平成11年4月から平成22年5月までの11年間、水道橋病院副院長として病院運営の一端も担わせていただきました。学会活動では、平成15年4月より今日まで、日本歯科保存学会で監事を務めております。また昭和52年1月より22年間、東京都国民健康保険診療報酬審査委員会の委員を、引き続き平成11年より今日まで13年間、東京社会保険診療報酬請求書審査委員会の副審査委員長として委嘱されてまいりましたが、出身大学を問わず先輩・後輩の多くの先生方と親交を深められたことは、私にとりまして大きな財産であり

ます。

最後になりましたが、東京歯科大学の益々の発展を祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。

### 略歴

学歴  
昭和40年 3月 栃木県立宇都宮高等学校卒業  
昭和40年 4月 東京歯科大学入学  
昭和46年 3月 東京歯科大学卒業  
昭和46年 4月 東京歯科大学大学院歯学研究科（歯科保存学）入学  
昭和50年 3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了  
昭和50年 5月 歯学博士の学位受領（東京歯科大学）

### 資格・免許等

昭和46年 5月 第49回歯科医師国家試験合格  
昭和46年 5月 歯科医籍登録 第59496号  
平成 6年 9月 日本歯科保存学会保存治療専門医  
平成16年 7月 日本歯科保存学会保存治療指導医  
平成16年12月 歯科医師臨床研修指導歯科医  
平成21年11月 日本歯科東洋医学会指導医

### 職歴等

昭和50年 5月 東京歯科大学歯科保存学第三講座助手  
昭和50年 5月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校講師  
昭和52年 4月 東京歯科大学歯科保存学第三講座講師  
昭和55年 1月 東京歯科大学病院保存科医局長  
昭和56年 4月 東京歯科大学歯科衛生士専門学校主事  
昭和58年 6月 東京歯科大学歯科衛生士学校教務部長  
平成元年 6月 東京歯科大学水道橋病院保存科主任  
平成 2年 7月 東京歯科大学水道橋病院総合歯科主任（併任）  
平成 2年11月 東京歯科大学歯科保存学第三講座助教授  
平成10年 6月 東京歯科大学図書館分館長  
平成11年 4月 東京歯科大学水道橋病院保存科教授  
平成11年 4月 東京歯科大学水道橋病院副院長  
平成16年 6月 東京歯科大学水道橋病院保存科科长  
東京歯科大学水道橋病院総合歯科科長（併任）  
東京歯科大学水道橋病院スポーツ歯科科長（併任）  
平成18年 4月 東京歯科大学水道橋病院歯科衛生士部部长  
平成19年 4月 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座（歯科保存学分野）教授

### 学会および社会における活動

昭和52年 1月 東京都国民健康保険診療報酬審査委員会審査委員（平成11年5月まで）  
平成11年 6月 東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会副審査委員長（現在）  
平成15年 4月 日本歯科保存学会監事（現在）  
平成17年 4月 日本歯科東洋医学会理事  
平成17年10月 埼玉県立大学短期大学部講師  
平成18年11月 第24回日本歯科東洋医学会学術大会大会長  
平成19年 4月 日本歯科東洋医学会常任理事（現在）  
平成20年 4月 埼玉県立大学講師

### 賞罰

平成元年 5月 国民健康保険中央会表彰  
平成 9年10月 厚生大臣表彰

## 定年退職のご挨拶



## 内科学講座

森 下 鉄 夫

平成24年3月31日をもって定年退職致しました。

平成13年10月に市川総合病院内科学講座へ奉職し、10年6ヶ月間お世話になりました。その間、皆様に御指導いただき、無事に責務を全うすることができましたことを厚く御礼申し上げます。

私自身は消化器内科医ですが、呼吸器や腎臓・高血圧、糖尿病・内分泌など全内科領域の責任者として内科全体の発展に意を注ぎました。この間皆様の御協力で、内科学講座の医師は1.3倍に増加し、リュウマチ・膠原病や血液内科の常勤医師も来られ、内科のサブスペシャリティは全て揃いました。この事は内科の中のみならず他科の先生方にも少しお役に立てたかと思えます。

平成18年と23年には病院機能評価更新受診をし、連続していわゆる一発合格を果たしました。とくに平成23年3月には629項目につき審査を受け、最良の成績で完全無条件合格を致しました。

南米のボリビアとのお付き合いは34年になりますが、平成13年に日本-ボリビア医療友好協会会長となり、平成19年に特定非営利活動法人日本-ボリビア医療友好協会理事長に就任しました。第8回（平成15年・2003年）・第9回（平成18年・2006年）・第10回（平成22年・2010年）の日本-ボリビア国際消化器シンポジウムを、ボリビアのサンタクルスで開催することができました。特に第10回では東京歯科大学歯科・口腔外科の先生により特別講演がされ、中南米の医師の高い関心を呼びました。また第30回パンアメリカン消化器病学会（平成18年・2006年、メキシコ・カンクン）ではSpecial Symposium Japan-Boliviano-Mexico Current Management of Gastric Cancer and Colorectal Cancer in Japanを担当致しました。国内では各学会に加え東葛消化器機能懇話会やI-Iフォーラムを主催し、地域との結びつきを深めることができました。

退職後は国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授として、山王メディカルセンターにて引き続き診療・教育・研究に努めます。

今後とも御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 略 歴

## 学歴・職歴

- 昭和40年 3月 静岡県立静岡高等学校卒業
- 昭和40年 4月 慶應義塾大学医学部入学
- 昭和46年 3月 慶應義塾大学医学部卒業
- 昭和46年 4月 慶應義塾大学大学院博士課程入学
- 昭和49年 8月 San Lazaro Hospital (Manila, the Philippines)にてコレラの研究に従事(昭和49年11月まで)
- 昭和50年 4月 慶應義塾大学大学院博士課程終了(博士論文コレラの臨床的研究-内視鏡的・組織的および生化学的研究)  
慶應義塾大学医学部内科学助手となる
- 昭和55年 1月 International Centre for Diarrhoeal Disease Research, Bangladesh (ICDDR,B) (Dacca, Bangladesh)にて大腸菌などの感染性下痢症の研究に従事(昭和55年12月まで)
- 昭和59年 4月 University of California at Los Angeles (UCLA)の研究者となり、微小循環の研究に従事(昭和61年5月まで)
- 昭和61年 6月 東海大学医学部第3内科講師となる(昭和62年10月まで)
- 昭和62年11月 静岡赤十字病院第1内科部長兼消化器科部長となる(平成13年9月まで)
- 昭和63年 4月 慶應義塾大学医学部講師(非常勤)を兼任する(現在に至る)
- 平成 5年11月 Bolivian Catholic University School of Medicineの正教授(Professor titular)を兼任する(現在に至る)
- 平成13年10月 東京歯科大学市川総合病院内科学講座主任教授兼内科部長となる(平成24年3月まで)
- 平成16年 6月 東京歯科大学市川総合病院副院長となる(平成22年5月まで)
- 平成22年 6月 東京歯科大学市川総合病院病院機能統括部長となる(平成24年3月まで)
- 平成24年 3月 定年により退職

## 学会および社会における活動

- 昭和54年 2月 日本内科学会指導医(平成24年3月まで)
- 昭和62年 2月 日本微小循環学会評議員(現在に至る)
- 昭和63年 9月 厚生省の外国医師又は外国歯科医師に対する臨床修練指導医(現在に至る)
- 昭和63年10月 日本内科学会認定内科医(現在に至る)
- 昭和64年 1月 日本静脈学会評議員(現在に至る)
- 平成元年 4月 日本肝臓学会認定肝臓専門医(現在に至る)
- 平成 6年11月 日本潰瘍学会評議員(現在に至る)
- 平成 7年 6月 American Association for the Advancement of Science, Member (現在に至る)
- 平成 7年 6月 The New York Academy of Sciences, Member (現在に至る)
- 平成 8年 5月 日本医師会認定スポーツ医(現在に至る)
- 平成 8年12月 日本消化器内視鏡学会指導医(平成24年3月まで)
- 平成10年 1月 日本消化器病学会指導医(平成24年3月まで)
- 平成10年 7月 日本医師会認定産業医(現在に至る)
- 平成10年 9月 日本門脈圧亢進症学会評議員(現在に至る)
- 平成11年 5月 日本消化器内視鏡学会評議員(現在に至る)

平成13年10月	東京歯科大学学会評議員(平成24年3月まで)	平成 3年10月	Bolivian Catholic University名誉代表となる(現在に至る)
平成14年 5月	American Society for Gastrointestinal Endoscopy,International member (現在に至る)	平成 7年11月	ラバス市(ボリビア首都)名誉市民(現在に至る)
平成16年 6月	東京歯科大学学会理事(平成19年5月まで)	平成 7年11月	ボリビア外科学会名誉会員(現在に至る)
平成16年12月	日本消化管学会評議員(現在に至る)	平成13年10月	スクレ市(ボリビア憲法上の首都)名誉市民(現在に至る)
平成18年 1月	日本消化器病学会財団評議員(現在に至る)		日本-ボリビア医療友好協会会長(平成19年11月まで)
平成19年11月	日本医療機能評価機構評価調査者(現在に至る)	平成18年11月	サンタクルス市(ボリビア第2の都市)名誉市民(現在に至る)
平成19年11月	日本消化管学会胃腸科認定医(現在に至る)	平成19年12月	特定非営利活動法人日本-ボリビア医療友好協会理事長(現在に至る)
平成21年 3月	日本人間ドック学会認定人間ドック健診情報管理指導士(現在に至る)		
平成21年11月	日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医(現在に至る)		

## ■名誉教授の推薦

平成24年2月14日(火)の第595回教授会において、本学名誉教授称号授与と規程に基づき、本年3月31日付で定年退職される横石武美教授を名誉

教授に推薦することが了承された。これを受け、平成24年2月24日(金)開催の第675回理事会において平成24年4月1日付の推薦が承認された。

## 学内ニュース

### ■一般入学試験Ⅰ期・大学入試センター利用試験Ⅰ期、一般入学試験Ⅱ期・大学入試センター利用試験Ⅱ期、編入学試験B、学士等特別選抜B実施

平成24年度一般入学試験(Ⅰ期)・大学入試センター利用試験(Ⅰ期)が、平成24年2月2日(木)午前9時より、水道橋校舎及び大阪会場の天満研修センター、福岡会場のTKP天神シティセンターの3会場において実施された。Ⅰ期は、一般入学試験348名、大学入試センター利用186名、併願者150名、合計534名(実数384名)の志願者があった。一般入学試験志願者には英語、数学、理科の3科目の学力試験、小論文、面接を実施した。大学入試センター利用試験志願者は、1月14日(土)、15日(日)に実施された大学入試センター試験において本学が指定した科目を予め受験してもらい、2月2日(木)に水道橋校舎及び大阪会場、福岡会場において小論文、面接試験を実施した。一般(Ⅰ期)、大学入試センター利用(Ⅰ期)共に2月4日(土)午後4時に本学ホームページにて合格者が発表され、合格者に合格通知が発送された。

平成24年度一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用試験(Ⅱ期)が平成24年3月10日(土)午前9時より、水道橋校舎において実施された。一般入学試験では104名、大学入試センター利用28名、併願者26名、合計132名(実数106名)、また、今回、従来の学士編入学試験から再編・新設

された、編入学試験B、学士等特別選抜Bも同時に水道橋校舎で実施され、7名の志願者があり、小論文・小テストおよび面接試験が行われた。編入学試験Bの合格者は、来年度の第2学年に編入、学士等特別選抜Bは第1学年に入学する。

### ■市川総合病院がん連携フォーラム 放射線療法 の推進に関する講演会開催

平成24年2月9日(木)午後6時より、市川総合病院講堂において、がん連携フォーラム放射線療法 の推進に関する講演会が開催された。

現在、がん医療に携わる医師などの素養として、副作用対応を含めた放射線療法などの経験があることが求められており、平成23年度がん診療連携拠点病院整備指針においても、全てのがん診療連携拠点病院において放射線療法などの研修が義務づけられた。この状況を踏まえ、当院では教職員ならびにがん診療に携わる県内医療従事者を対象として「がん治療における放射線治療の役割」と題し、次の各テーマに分け、それぞれに講演者を立て、松井淳一外科部長の司会進行のもと行われた。

講演1「放射線治療の基礎と臨床」

東京慈恵会医科大学

放射線科教授 兼平 千裕

講演2「安全で正確な放射線治療をめざして」

東京歯科大学市川総合病院

診療放射線技師 山崎 靖幸

講演3「放射線治療－看護師の立場から」

東京歯科大学市川総合病院

放射線科看護師 海老根佳英

100名を超える参加者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、大変有意義なものとなった。



フォーラム講演風景：平成24年2月9日（木）、市川総合病院講堂

### ■臨床基礎実習に関するワークショップ開催

平成24年2月12日（日）、水道橋校舎13階において、保存・修復系を対象とした臨床基礎実習に関するワークショップが開催された。本ワークショップは水道橋移転に伴う臨床基礎実習の在り方を検討していく上で、非常勤講師として普段の基礎実習をご担当されている学外の同窓の先生方にもご協力いただき、現在行われている基礎実習を見直し、それをもとに新たな実習カリキュラムを作成するとともに、本学の教育目標およびカリキュラムについての理解を深めることを目的とし開催された。

今回はご多忙の中、11名もの同窓の先生方にご賛同いただき、本学からのスタッフおよび参加者と合わせ28名が集まり、臨床基礎実習で出来ることやカリキュラム・プランニングに関する4つのセッション、1つのレクチャーからなるプログラムが実施された。3グループに分かれ、限られた時間内にグループ討議、発表を行う凝縮された内容のワークショップであった。本ワークショップは、さらに担当科別に今後も継続して実施していく予定であり、教育体制の改革と教育指

導のより一層の充実を目指している。



グループワーク風景：平成24年2月12日（日）、水道橋校舎13階セミナー室

### ■平成23年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会開催

平成24年2月13日（月）午後6時より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成23年度水道橋病院臨床研修歯科医症例報告会が開催された。本会は、1年間の臨床研修の総括として、臨床研修歯科医自らが治療を行った症例について学会形式で報告するものである。第9回目となる今回は、14名の臨床研修歯科医全員が口頭発表による症例報告を行った。

当日は、院内の教職員をはじめ、協力型臨床研修施設の指導医の先生方にもご出席いただき、活発な質疑応答が行われ、今後の診療に役立つアドバイスをいただいた。また、「発表内容の理解度」「プレゼンテーション能力」「診断および治療計画の立案」等の項目で評価を受けた。

研修修了を間近に控えた臨床研修歯科医にとってこの症例報告会は1年間の研修の集大成であり、その締めくくりに相応しい会となった。



研修歯科医による症例報告風景：平成24年2月13日（月）、水道橋校舎13階ルームB

## ■市川総合病院 市川市医師会・歯科医師会員等医療関係者との講演会及び懇親会開催

平成24年2月16日(木)午後7時より、市川総合病院と地域の各医療機関との病診連携の強化を推進するため、市川市医師会・歯科医師会員の先生方および市川市の医療関係者を招いて講演会および懇親会が、市川グランドホテルにて開催された。

講演会では、川崎市立井田病院 地域連携部長の鈴木 厚先生をお招きして、「どうなる日本と日本の医療－その診断と治療法－」と題してご講演いただいた。日本の医療における保障のあり方や、世界と比較した医療制度の問題点など今後、超高齢化を迎えようとする日本の社会保障制度改革の必要性などをスライドを用いて解りやすく説明された。130名を超える参加者からは、大いに関心が寄せられ、質疑応答も活発に行われ、大変有意義な講演会となった。

講演会終了後には、同ホテルにおいて懇親会が行われた。患者を通じてのやりとりはあるものの直接会ってお話する機会はなかなか無いため、市川総合病院の教職員の紹介と、医師会・歯科医師会員の先生方および市川市医療関係者の紹介が行われた。和やかな雰囲気の中でお互いの距離を縮めることのできた有意義な懇親会は盛会のうちに午後9時半過ぎに終了した。



講演される鈴木先生：平成24年2月16日(木)、市川グランドホテル

## ■第4学年共用試験CBT-OSCE実施

平成17年度から正式実施となった『臨床実習開始前の学生評価のための共用試験』（医療系大学間共用試験実施評価機構）が、第4学年生を対象に行われた。これは、社会からの要請に応え、信頼される医師・歯科医師を養成するために、全国

の医歯学部を有する大学が参加し、診療参加型臨床実習を推進するにあたり学生が一定水準以上の知識、技能、態度を有しているか評価するものである。CBT（コンピュータによる客観試験：知識領域）が、平成24年2月17日(金)に水道橋校舎13階ルームAで、OSCE（客観的臨床能力試験：態度・技能領域）が、2月26日(日)に千葉校舎臨床基礎実習室、臨床シミュレーション実習室、セミナー室等において実施された。また、CBT追・再試験が3月8日(木)に行われた。

CBTは、約130名の学生が一斉にコンピュータ画面に向かって多肢選択式の試験に取り組んだ。今年も昨年同様、選択肢が6つ以上設けられる多肢選択問題の2連問(L形式)順次解答型五肢択一問題の2連問、4連問(W,Q形式)、五肢択一問題(A形式)の各形式で合計320問、6時間におよぶ試験が行われた。学生は、最後にコンピュータ上でアンケートに答え、試験を終了した。

OSCEは、医療系大学間共用試験実施評価機構で策定された共通課題、評価シート、評価マニュアルに従って実施され、医療面接・説明指導系2課題、技能系4課題にレスト(休憩)を加えた8ステーション(ST)で実施された。機構から2名のモニター、他大学から6名の外部評価者、外部から8名の標準模擬患者(SP)の協力を得て、総勢160名を超えるスタッフを動員して行われた。臨床実習を間近に控えた学生たちは、真剣な面持ちで試験に臨んでいた。

## ■大学院入学試験(Ⅱ期)実施

平成24年2月18日(土)午前9時30分より、千葉校舎において、平成24年度大学院入学試験(Ⅱ期)が実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。今回は、志願者9名が受験し、2月24日(金)正午に合格者の発表が行われた。

## ■第110回歯科医学教育セミナー開催

平成24年2月20日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第110回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「医学教育への市民参加の取組について」と題し、平田創一郎准教授(社会歯科学研究室)より報告が行われた。群馬大学では医学部附属病院医療情報部の酒巻哲夫教授が、

医学科1年に対する「医療のしくみと情報」という講義を、同時に市民公開講座として開講している。この講義に平田准教授が参加したので、医学教育への市民参加について本学での取組と比較して報告がなされた。群馬大学では、公開講座受講者が医学生と一緒に受講し、ディスカッションすることで、市民が医療に対して期待し、厳しく評価していることを医学生が学ぶことを目的としている。一方、本学のP-Comの取組では、市民の方から歯科医師とはどうあるべきかを、コミュニケーション学の観点からより積極的・直接的に学生にフィードバックしてもらっている。いずれも他に例を見ない先進的な取組であり、今後の成果が期待される。



説明する平田准教授：平成24年2月20日（月）、千葉校舎第2教室

### ■平成24年度推薦入学者等の入学前スクリーニング開催

本学へ入学予定の編入学生・推薦合格者を対象とした、入学前スクリーニングが平成24年2月23日（木）に12時30分より、水道橋校舎13階のルームAにおいて開催された。

入学前の学習成果を確認の後、教養科目担当教



説明する高際 睦准教授：平成24年2月23日（木）、水道橋校舎13階ルームA

員から、大学教育における各科目の位置付けや学習内容について解説が行われた。

最後に、河田英司教務部長より、学習面に関する事項や大学生活に向けての心構え等説明された。

参加者全員、皆真剣な面持ちで説明に聞き入り、来るべき歯科医師に向けての新生活への意気込みが感じられた。

### ■平成23年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年2月27日（月）午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームAにおいて、平成23年度第8回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は「感染予防」と「医薬品の安全使用」に関する内容で行った。

初めに感染予防に関して、感染予防対策チーム委員会の田口達夫講師から感染予防と手洗いの基本、および昨年11月に行われた教職員研修会での手洗い実習の結果と評価について講演があった。まず、一般的な感染症の予防対策として「感染源の排除」「感染経路の遮断」「感染を受けやすい人の改善」の内容について説明され、感染予防の基本としては感染経路を絶つこと、伝播経路を断つことが重要であると述べられた。この感染経路を遮断するもっとも基本的な方法として手洗いがあり、その殺菌レベルとして「日常手洗い」「衛生的手洗い」「手術時の手洗い」があることを図で示された。医療現場における感染予防対策が衛生的手洗いであり、現在は速乾性手指消毒を用いた手洗いが感染予防のスタンダードとして考えられつつあり、接触感染の防止が最終的な目的であると述べられた。手洗い実習の評価としては、過去2年回の手洗い自習と本年度の実習との比較から手洗い実習の評価として成果が得られていることを示した上で、今後注意したい部位を指先・手の甲・手首を上げ、また利き手である右を意識することを述べられた。まとめとして、手洗いは感染経路を遮断する基本的な方法であり、交差感染の防止と医療従事者を守ることとして最も重要な手段であることを心がけるように促された。

続いて医薬品の安全使用に関して口腔外科の笠原清弘講師から、「抗血栓療法患者に対する対応～特にプラザキサカプセルについて～」と題す

る講演があった。抗血栓療法、特にワルファリン投与中の患者に対する抜歯の際には、各種学会によるガイドラインが設けられている。「原疾患を至適治療域にコントロールした上で、ワルファリン内服継続下での施行が望ましい」、「PT-INR値が3.0以下であれば、ワルファリン継続下に抜歯可能である」というのがその要旨である。2011年3月に販売が開始された経口抗凝固薬プラザキサカプセル（タビガトランエテキシラートメタンシルホン酸塩）は、直接トロンビン阻害剤であり、これらのガイドラインには合致していない。また、抜歯に際しての休薬の是非についてもエビデンスに乏しくPT-INRなどの指標もないことから、内科医の間でも統一見解はない。まだ投与されている患者の絶対数は少ないが、ワルファリンからの切り替えにより今後増えてくる可能性もある。水道橋病院としてもこのような症例に対する注意の喚起と、対応策の検討が必要だと考えさせられた講演であった。

### ■第341回大学院セミナー開催

平成24年2月28日(火)午後5時より、第4教室において、第341回大学院セミナーが開催された。今回は、日本大学松戸歯学部生化学・分子生物学講座の安孫子宜光教授を講師にお迎えし、「歯周病の機能ゲノム科学的診断と分子標的治療」と題した講演を伺った。安孫子教授は昨年より本学口腔科学研究センターの客員教授としても研究の御指導を頂いている。御講演は、まず基本的なヒトゲノムが解読された今、その経緯、現在の臨床応用例など紹介され、本題である疾患関連分子に対する分子標的治療の実現に向けた先生の研究を話された。その概要は、歯周病における診断から分子標的治療を実現するためには、歯周病原菌の細菌検査が不可欠であるが、病原性は菌株により多様性を示し、かつ同一株でも生息環境により病原因子の発現が異なるので、疾病がまさに起こっているその時点の病原因子の発現をモニターしなくてはならない。その為に、歯周ポケットの組織からmRNAレベルの解析を行う必要があり、先生の教室では、歯周病原菌のゲノムプロジェクト、比較ゲノム、プロテオーム解析に基づく治療標的分子を同定し、その標的分子に対する受動免疫抗体、粘膜ワクチン、IT創薬を開発しているとい

う、大変興味ありまた、大学院生が研究を進める上でも多くの示唆を頂戴した。講演後多くの質問があり活気あるセミナーとなった。



講演される安孫子教授：平成24年2月28日（火）、千葉校舎第4教室

### ■平成23年度口腔科学研究センターワークショップ開催

平成23年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップが、平成24年3月2日(金)午後5時より、東京歯科大学千葉校舎教養棟第5教室において開催された。高添一郎名誉教授を始め、出版社の方々を含め約100名が参加し、活発な論議が繰り広げられた。

石原和幸口腔科学研究センター研究機器管理部長の司会のもと、先ず始めに井出吉信学長により、東京歯科大学における研究の重要性を強調した開会の挨拶があった。その後、井上孝口腔科学研究センター所長より、口腔科学研究センター(口科研)組織の概要が説明された。私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクト研究hrc8が2年目に入ったこと、コア研究は従来の分子再生学研究部門、口腔インプラント学研究部門に加え、新たに口腔アンチエイジング研究部門がスタートしたこと、さらには、大学間共同研究プロジェクトおよび学長奨励研究プロジェクトが加わったことが報告された。

引き続き、各部門における研究進捗状況が報告された。先ず、プロジェクト8(hrc8)：上皮からみた口腔機能の特異性基盤の解明と疾患制御、に関して報告された。1. 上皮機能研究グループについては、澁川義幸グループリーダーより概要説明が行われた後、口腔粘膜上皮組織を支配する三叉神経節ニューロン群の特性解明(黒田英孝大学院生)、I型糖尿病マウスにおけるBMP7と



Gremlinの発現動態(四宮敬史助教)、ラット唾液腺における侵害受容タンパク質TRP channelsの発現と機能検索(Sobhan Ubaidus PF、佐藤正樹PF)が報告された。次いで、2. 免疫機能・トランスレーショナル研究グループの概要説明が阿部伸一グループリーダーよりなされ、その後、*Treponema denticola*の細胞侵入に対するMalassez上皮遺残細胞の細胞動態(国分栄仁助教)、N-アセチルシステインの組織再生のための創傷感染予防効果(山田将博助教)の報告があった。

休憩時間をはさんで、コア研究部門の概要が報告された。東 俊文分子再生学研究部門主任より、主に①間葉系幹細胞を出発細胞とする骨再生医療の開発、②iPS細胞の作製と骨再生医療への応用、③組織幹細胞、SP細胞、iPS細胞と癌幹細胞の関係、を研究していることが報告された。次に、吉成正雄口腔インプラント学研究部門主任から、①顎骨の生体アパタイト結晶配向性と力学的特性評価、②顎骨再生(三次元培養、スタチン系薬剤の応用、低出力超音波パルス(LIPUS)の応用)、③表面化学修飾法によるインプラント表面改質、④ジルコニアの応用(疲労特性、陶材積層の影響、生体多機能化)、について、多くの大学院生が参画して研究を展開していることが報告された。また、石原和幸口腔アンチエイジング研究部門主任からは、本部門はプロジェクト研究7の継続研究として開始している旨の報告がなされた。

最後に、田崎雅和口腔科学研究センター実験動物施設管理部長より、東京歯科大学の研究拠点としての口腔科学研究センターに一人でも多くの研究者が参画して研究を展開することを期待するとの閉会の辞がなされ、成功裡のうちに散会した。



ワークショップ風景：平成24年3月2日(金)、千葉校舎教養棟第5教室

## ■第342回大学院セミナー開催

平成24年3月6日(火)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第342回大学院セミナーが開催された。今回は本学客員教授Dr. Bruce J. Baumをお迎えして、講演を伺った。

Dr. Baumは、昨年の10月、米国NIH診療センター医学研究企画推進部長に就任され、本学客員教授、ヘブライ大学の客員教授を兼任されている。本学客員教授の経歴は1996年から現在に至る16年間であるが、本学での講演歴は1994年からで、これまでに15回以上来校し大学院セミナー、学部学生の授業等を通じて、本学の研究と教育に貢献された。

今回の来日は、本学薬理学講座川口 充教授が申請した日本学術振興会の海外研究者招聘基金の援助により14日間(3月4日から17日)の国内活動が実現した。本学での講演以外に、東京大学医科学研究所、東海大学医学部、北海道医療大学歯学部、日本薬理学会 年会(京都)における特別講演が予定に組まれている。

本学での講演のテーマは、Gene delivery in salivary glands: from the bench to the clinic(唾液腺への遺伝子輸送：実験室から臨床へ)で、放



講演されるBaum先生：平成24年3月6日(火)、千葉校舎第2教室



講演されたBaum先生(右)へ感謝状を渡す川口教授(左)：平成24年3月6日(火)、千葉校舎第2教室

射線障害を受けた唾液腺の修復を問題の中心に掲げ、唾液腺遺伝子輸送について、研究の進歩を追い、いくつかの問題点および、将来の展望について分かり易く、ゆっくりした英語で説明された。

Dr. Baum は最後に「唾液腺を使って得られた一番大きな成果は、実験室で生まれたアイデアを患者に使えるようにする道筋を提示できたことである。」と述べた。この講演で、新技術、新製品の開発に携わることは、単なる研究思考だけでなし得るものではなく、強い意志と優れた判断力が求められることを理解した。

### ■第105回歯科医師国家試験結果

第105回歯科医師国家試験は、平成24年2月4日(土)、5日(日)の両日に実施され、3月19日(月)に合格者が発表された。今回の受験者は全国で3,326名、合格者は2,364名。合格率(全国平均)は71.1%であった。

本学からは、平成24年3月卒業の第117期生128名、既卒者24名の計152名が受験、見事148名が合格した。

合格率97.4% (新卒者98.4%、既卒者91.1%)という驚異的な数字をたたき出し、全国29歯科大学、歯学部(国公立)のトップの栄冠に輝いた。

### ■平成23年度臨床研修修了式開催

平成23年度の臨床研修修了式が、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の三病院でそれぞれ行われた。

千葉病院では、平成24年3月23日(金)午前9時より、千葉校舎実習講義棟3階歯科臨床研修医室において、平成23年度歯科医師臨床研修修了式が行われた。

式は杉戸博記研修管理副委員長の開式の辞に始まり、高野伸夫千葉病院長から修了者を代表して、天貝玲奈臨床研修歯科医に修了証が授与された。引き続き高野伸夫千葉病院長による訓示、高橋俊之研修管理委員長の挨拶が行われ、修了式は無事に閉式した。

市川総合病院では平成24年3月22日(木)午前8時30分より、市川総合病院第2・3会議室において、医科と歯科の臨床研修修了式が合同で行われた。式は司会の間部克善事務部長の開式の辞により始まり、安藤暢敏市川総合病院長から研修修了

者(医科10名、歯科5名)に修了証が授与された。引き続き安藤市川総合病院長の訓辞が行われ、その後西田次郎副病院長(研修管理委員長)、片倉 朗歯科研修管理委員長の挨拶があり、修了式を閉式した。

水道橋病院では、平成24年3月19日(月)午前9時より、水道橋校舎6階研修室にて挙行された。式は司会の古澤成博研修管理委員長の開式の辞に続いて、高野正行副病院長より研修修了者14名に修了証が授与された。引き続き、高野副病院長より訓辞をいただき、2月13日(月)に開催された「平成23年度臨床研修歯科医症例報告会」の優秀賞3名(毛利有佑、中村有希、佐伯華子)を発表し、受賞者に病院からの表彰盾ならびにノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社より優れた研修歯科医に送られる「研修歯科医アワード」の表彰盾を授与し、修了式を閉式した。



挨拶する高橋研修管理委員長：平成24年3月23日(金)、千葉校舎実習講義棟歯科臨床研修医室



修了証を授与する安藤市川総合病院長(右)：平成24年3月22日(木)、市川総合病院第2・3会議室

**■平成23年度第9回水道橋病院教職員研修会開催**

平成24年3月22日（木）午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームBにおいて平成23年度第9回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「平成23年度カルテ指導総括と平成24年度診療報酬改定概要」と題して水道橋病院カルテ指導委員である北村 晃非常勤講師より、平成23年度中の水道橋病院全医局員のカルテ記載についての総評、ならびに平成24年度診療報酬改定における各項目の変更点および新設項目についての解説

がなされた。

水道橋病院では平成18年の特定共同指導以降、継続的に外部のカルテ指導員による医局員へのカルテ記載の指導がなされてきた。当初に比べカルテの記載内容も充実が見られ、非常に大きく改善されているとの総評をいただいた。また、カルテ



講演される北村非常勤講師：平成24年3月22日（木）、水道橋校舎13階ルームB

記載上の注意事項が具体例とともに示され、基本的ルールの再確認と更なる質の向上が期待された。

平成24年度の診療報酬改定では、周術期における口腔機能の管理・チーム医療の推進また在宅医療の推進といった重点課題、生活の質に配慮した歯科医療の充実・患者の視点に立った歯科医療の充実他4項目からなる医療技術の導入という枠組みにおける改定内容が解説された。今回の改定は全体的にプラス改定となっており、歯科医療における重要性と医療技術の質の確保が期待されていることを痛感した。

#### ■平成23年度大学院歯学研究科修了式開催

平成24年3月23日（金）午前10時より、千葉校舎第一会議室において、平成23年度大学院歯学研究科修了式が開催され、本年度大学院修了生



修了式後の記念撮影：平成24年3月23日（金）、千葉校舎第一会議室前

37名がアカデミックガウンと帽子を装い出席し、井出吉信学長から修了証が授与された。最後に2回に分けて記念写真を撮影し、式は終了した。式終了後、厚生棟2階で大学院学生会主催の懇親会が開催され、井出学長、井上孝大学院研究科長をはじめとした多くの大学院の指導教授も出席し、盛会のうちに終了した。

### ■第111回歯科医学教育セミナー開催

平成24年3月26日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第111回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「歯科医療におけるコミュニケーション教育について」と題し、千葉県立保健医療大学健康科学部の准教授であり、本学の非常勤講師を務められている保坂誠先生から講演が行われた。保坂先生はヘルスカウンセリング学会の理事長として活動されており、本学におけるコミュニケーション学教育にその立ち上げから現在までご尽力いただいている。本日は、コミュニケーション能力の向上に必要な1.観察力を養う、2.期待と感情のとらえかた、3.意識したコミュニケーションについて解説された。まず、双方向のコミュニケーションの重要性、コミュニケーションに占める言語・非言語コミュニケーションの比率の大きさ、その上で言語コミュニケーションの重要性について解説があり、続いて感情の種類(基本感情：喜び・不安・怒り・悲しさ・苦しさ)とそれらに対する期待や反応について詳細に解説された。患者の期待や気持ち(不安など)を理解せずに現実的な援助(具体的な処置・対応)を考えると、必ずしも患者満足を得ることはできないこと。話のポイントをとらえるためには、言語・非言語メッセージをとらえる観察力が必要であり、特に表情や仕草から患者の感情の変化に気付いたら、すぐに適切に対応できなければならないこと。質問に対し直接的な回答だけではなく、言語の背後にある感情(ニーズ)への対応が必要であり、気持ちに焦点を当てた問いかけと回答が重要であること。自分の聞きたいことを聞くのではなく、相手の言いたいことを聴く『傾聴』が重要であり、いかに患者が安心して話をすることができるかという技術(効果的な沈黙やブロッキングを外すこと)を身につける必要性。歯科疾患は患者にしか判別できない感覚があり、それらは患者との

コミュニケーションからしか医療者は認知し得ないなど、実際に本学で行われているコミュニケーション学教育の手法の紹介を交えながら、身につけるとすぐに歯科臨床で役立つコミュニケーション技法の具体的な解説がなされた。河田英司教授に対し、実際に学生実習で実施しているコミュニケーションの有無による肩もみの違いを実演されたり、参加者へ問いかけされたりと、まさしく双方向コミュニケーションを実践した、大変わかりやすく有意義な講演であった。コミュニケーション学には大変多くの人的資源の投入が不可欠であり、今後、本学のコミュニケーション学教育の発展に大いに資するものと期待される。



コミュニケーションを実践する保坂准教授(左)：平成24年3月26日(月)、千葉校舎第2教室

### ■口腔がん専門医養成コースフォーラム開催

平成24年3月28日(水)午後5時より、東京ドームホテル、シンシアの間において、東京歯科大学大学院歯学研究科による口腔がん専門医養成フォーラムが開催された。口腔がん専門医養成コースとは、文部科学省が平成19年度に優秀ながん専門家を養成する目的で「がんプロフェッショナル養成プラン」を立ち上げ、その中で東京歯科大学が唯一の歯科医学系の参加校として平成20年度から開始した事業である。本プランは平成23年度で終了するため、今回これまでの本学の成果を報告する会を開催する運びとなった。特別講演は、井上孝大学院研究科長を座長として、慶應義塾大学外科学教室の北川雄光教授より「消化器がん低侵襲治療の開発とがん専門医教育の両立」と題した講演と、(公財)がん研究会がん研究所蛋白創製研究部の芝清隆部長より「ナノテクノロジーはがんの診断・治療をどう変えていくのか?」と題した講演が行われた。続いて、野村武史

サブコーディネーターを座長として、本学が所属する9大学運営会議の議長を務めていた北里大学大学院医療系研究科呼吸器内科学の益田典幸教授による南関東圏における先端がん専門医の育成プラン概要の報告が行われ、次いで本学片倉 朗コーディネーターによる東京歯科大学の成果報告がなされた。また本学石崎 憲講師、大久保真衣講師による海外研修報告、さらに大学院修了者である河地 誉先生による4年間の成果報告が行われた。会議場の外では、現在履修中の大学院生による7演題の研究成果がポスター発表とし



講演される北川教授：平成24年3月28日（水）、東京ドームホテル



講演される芝部長：平成24年3月28日（水）、東京ドームホテル



フォーラム会場風景：平成24年3月28日（水）、東京ドームホテル

て報告された。フォーラム終了後は懇親会が行われ、終始和やかなムードで会を終えた。この「がんプロフェッショナル養成プラン」の事業は平成23年度で終了するが、今後は「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」と名称を変えた新事業として継続することも決定した。この新プランのコーディネーターとして本学野村武史講師が選ばれ、今後は口腔がん治療の専門医育成だけでなく、新たにがん支持療法のための歯科医師養成コースも立ち上げる予定である。

#### ■千葉病院 口腔ケア普及推進講演会開催

平成24年3月29日（木）午後3時より、千葉校舎第5教室において、「千葉病院口腔ケア普及推進講演会」が開催された。本講演会は、病院入院中の患者に対する、入院中はもとより、その前後にかけての継続的な口腔ケアの推進を目的とした千葉県の「8020運動推進特別事業」業務委託の一環として、「口腔ケアを再考する」と題して企画された。

#### 【演題および演者】

1. 「在宅要介護患者に求められる口腔ケア」  
摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 准教授 石田 瞭
2. 「訪問歯科診療における口腔ケアの実際」  
歯科衛生士部 主任歯科衛生士 長澤恵子
3. 「順天堂大学医学部附属浦安病院でがん化学療法における口腔ケアを開始して  
～浦安歯科医師会との連携～」  
順天堂大学医学部附属浦安病院 血液内科 関口康宣 先生
4. 「浦安市がん治療における口腔ケアの医療連携モデル事業の推移 現在」  
宇田川歯科医院 院長 宇田川恵司 先生



挨拶をする柴原医療連携委員長：平成24年3月29日（木）、千葉校舎第5教室

## 5. 「周術期口腔管理料」の算定について

口腔外科学講座 講師 山内智博

当日は119名の参加者を迎え、柴原孝彦医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。各演題約30分間の講演が行われ、発表後の質疑応答時には、訪問歯科診療やがん治療における口腔ケアについて、問題点の解決方法や治療に対する創意工夫について意見が交換され、大いに盛り上がり、午後6時過ぎまで行われた。

## ■千葉校舎防災訓練実施

平成24年3月30日(金)午後1時30分より、千葉校舎において、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、防災無線の通信訓練の3つが防災訓練として実施された。

夜間防災訓練は、千葉病院において、あらかじめ選出された宿直者(口腔外科歯科医師、看護師)及び病院勤務者等約20名が参加した。震度5強の地震発生に伴う火災を想定して実施された。「火事だ」の掛け声が病棟内に響き、緊張感のある訓練となった。

つづく火元責任者の通報訓練では、各教室幹事等学内における火元責任者約70名が参加し、「地震が発生!」という訓練放送の後、各自が担当地域を点検し、被害状況を防災センターへ報告するという訓練を行った。当訓練は、火元責任者の自覚と「いざ」という時の意識の向上を目的としたものであり、各自の役割が改めて確認できる機会となった。

最後は、防災センター(総合管理室)において、防災無線の模擬通信訓練を実施した。施設課技術員、事務員、守衛、設備担当者など様々な職種で



夜間防災訓練に取り組む参加者：平成24年3月30日(金)、千葉校舎管理棟1階

ある6名が、実際に防災無線機を使用し美浜区役所地域振興課(美浜区災害対策本部)と交信した。仮想被災状況の報告は、昨年3月の大震災時を彷彿させる緊張感に満ちており、津波警報の発令等を想定した交信も行われ、有事の際に防災無線をどう利用するか、参加者の防災意識を高める有意義な訓練となった。

## ■水道橋病院 患者サービスに関するワークショップ開催

良質な医療の提供は、社会からのニーズである。これに応えるべく水道橋病院ではさまざまな工夫を行い対応してきているところである。良質な医療は医療を提供する側と患者との良好な関係の上に成り立っており、痛みを持って来院する患者へのきめ細やかな対応は、良質な医療の一部であるといえる。そこで水道橋病院では、問題点の抽出と対応策の検討を目的とし、本学で初めての試みとなる「患者サービスに関するワークショップ」を、平成24年3月31日(土)午後1時半から7時まで水道橋校舎13階ルームBおよびセミナー室において開催した。今回の参加者は、水道橋病院の職員30名で、職種は歯科医師、看護師、歯科衛生士、臨床検査技師、診療放射線技師、歯科技工士、視能訓練士、医事課事務職員と多方面にわたっている。6名ずつの5グループに分かれて活発なグループワークを行った。ディレクターは一戸達也水道橋病院長、サブディレクターは山下秀一郎総合歯科科長、高野正行水道橋病院副病院長、タスクフォースは古澤成博水道橋病院副病院長をはじめ水道橋病院スタッフ7名が務めた。

今回のワークショップは講義とグループワーク、発表を組み合わせで行った。始めに一戸水道橋病院長の開会の挨拶の後、概要説明が行われた。講義は「医療現場のコミュニケーション—一人一人が病院の顔」(株式会社ヨシダ・小島龍哉氏)と「接遇について—医療と航空 現場でのHospitalityを考える—」(法人庶務課・山崎知春)を受講した。問題点の抽出のテーマは、1.水道橋病院における受付の問題点、2.水道橋病院における診療現場(診療室、病棟)の問題点とした。活発な討議が行われ、ハード、ソフトの両面から様々な問題点が抽出された。直ちに対応することが困難な問題点も多かったが、参加者全員が病院の

サービス向上について真剣に考えていることがわかった。また、早急に対応可能な点も何点か判明した。ポストアンケートでは、各自の所属で直ちに実践できると思うことについて、「笑顔で患者さんに接する」「接遇、身だしなみ」「皆で問題点を話し合い、解決していく姿勢」「マニュアルに頼ら

ず、自分でも考えて行動する」「患者の誘導、待ち時間対策」など、明日からの患者サービス向上に役立つと思われる意見が挙がった。水道橋病院では、より良い患者サービスを提供していくために、スタッフ一同さらに様々な努力を続けていく。



グループに分かれての討議風景：平成24年3月31日（土）、水道橋校舎13階セミナー室



発表および全体討議風景：平成24年3月31日（土）、水道橋校舎13階ルームB

## 移転関係報告

平成24年2月27日

### 教職員への移転関係報告（10）

理事長 金子 譲  
学長 井出 吉信

教職員 各位

#### さいかち坂校舎の竣工について

本年4月1日より稼働予定の千代田区神田駿河台2丁目の新校舎につきまして、名称を「さいかち坂校舎」とすることが平成24年2月24日開催の第675回理事会にて承認を受けましたのでご報告いたします。同建物については平成24年2月末日竣工予定、同3月17日に竣工式を開催する予定です。

教職員各位におかれては、今後とも本計画の推進にご協力をお願いいたします。



さいかち坂校舎全景



平成24年3月23日

## 教職員への移転関係報告 (11)

理事長 金子 讓  
学長 井出 吉信

教職員 各位

### さいかち坂校舎の竣工について

かねてより建設中の「東京歯科大学さいかち坂校舎」が、平成24年2月末日、無事竣工の運びとなり、3月17日(土)午前10時30分より、さいかち坂校舎にて竣工式を執り行いましたのでご報告いたします。

さいかち坂校舎は、平成23年2月19日に起工式を行い、東日本大震災による影響を受けながらも、株式会社日本設計、清水建設株式会社の尽力もあって当初想定のスケジュール通り竣工いたしました。

神事後の直会では、来賓の平野文部科学大臣より御祝辞をいただき、水道橋移転計画の節目となるさいかち坂校舎の竣工を祝いました。

教職員各位におかれては、今後とも本計画の推進にご協力をお願いいたします。

竣工式 (H24.3.17 (土))  
〔神事：さいかち坂校舎6階〕



〔直会：TDCビル10階〕



## 法人から

### ■監事の監査の実施

平成24年2月20日(月)午後2時より、TDCビル5階役員室において、本学監事、松尾邦弘先生、大山萬夫先生により平成23年度監事の監査が実施された。監事の役割は、学校法人の財産状況の監査、理事の業務執行状況の監査、及び理事に意見を述べることなどが私立学校法に掲げられている。本学では毎年、定期、臨時を含めて随時行われているが、今回は金子 譲理事長、石井拓男財務担当常務理事、一戸達也法人主事、山本一郎内部監査室長、浦井俊夫法人経理課長が出席し、平成24年度概算予算及び平成23年度決算見込等を中心に説明があり、東京歯科大学の財務状況のほか、東京歯科大学を取り巻く経営環境や学校法人

全体の業務について質疑が行われ、無事終了した。



監査風景(写真右手より大山監事、松尾監事)：平成24年2月20日(月)、TDCビル5階役員室

## トピックス

### ■下野正基名誉教授 日本歯科医学会会長賞受賞

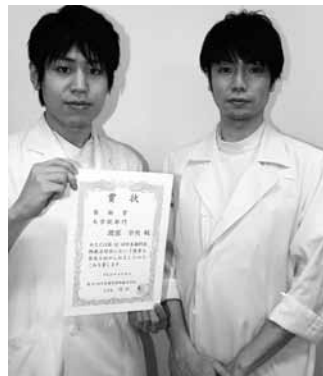
平成23年度の日本歯科医学会会長賞候補として特定非営利活動法人 日本臨床口腔病理学会より推薦されていた下野正基名誉教授は、同賞(教育部門)の受賞が決定し、平成24年1月20日(金)に日本歯科医師会大会議室で行われた授賞式において、江藤一洋日本歯科医学会会長から表彰状と副賞を授与された。

今回の受賞は、下野名誉教授のこれまでの教育活動の実績が高く評価されたもので、本学にとっても大変名誉なことである。

### ■渡部幸央大学院生 第31回日本歯科薬物療法学会総会で奨励賞を受賞

平成23年6月25日(土)から26日(日)におこなわれた第31回日本歯科薬物療法学会総会(幕張メッセ：千葉市)において、口腔外科学講座の渡部幸央大学院生が「東京歯科大学千葉病院における過去5年間の歯性感染症による入院症例の検討」の演題でポスター発表の大学院生部門において奨励賞を受賞した。本賞は、審査員が研究内容、プレゼンテーション、研究成果を総合的に評価し一般部門、大学院生部門、学生部門にそれぞれ贈られる賞である。

今回、口腔外科学講座の村松恭太郎助教の指導のもと、入院加療を要した症例にスポットをあて抗菌薬の使用状況、検体の採取培養法や細菌学的検討について報告した。多くの参加者の興味を集め、多義にわたる質問がおこなわれた。歯性感染症は日常の臨床でよく遭遇する疾患である。歯性感染症の治療では試験的穿刺による膿汁の確認および炎症部位の同定、切開排膿による消炎処置、抗菌薬の投与がおこなわれる。この報告をもとに効果的な抗菌薬の使用を確立すべく研究は継続されており、今後の発展が期待される分野である。

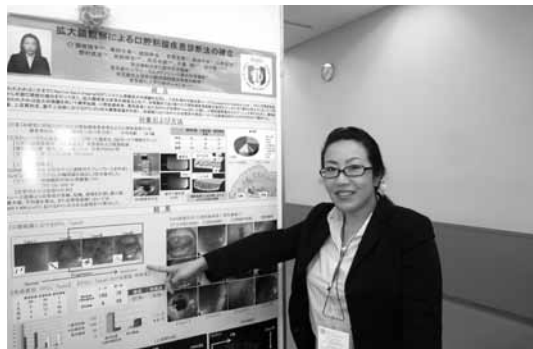


受賞した渡部大学院生(左)と村松助教(右)：平成23年6月26日(日)、幕張メッセ

## ■関根理予大学院生・渡部幸央大学院生 第30回日本口腔腫瘍学会優秀ポスター賞を受賞

平成24年1月26日(木)から27日(金)の期間に大宮ソニックシティで行われた第30回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会で、口腔外科学講座の関根理予大学院生、渡部幸央大学院生がポスター部門において優秀ポスター賞を受賞した。関根大学院生は「拡大鏡観察による口腔粘膜疾患診断法の確立」の演題で発表を行った。上部消化管・下部咽頭領域ではNarrow Band Imaging (NBI®) システム搭載拡大内視鏡を用いて病変とその周囲の上皮乳頭内毛細血管ループ (Intrapapillary Capillary Loop : IPCL) のパターンを分類することで早期癌の描出に成果をあげている。これまでに口腔外科学講座では口腔領域において拡大内視鏡検査を応用し、IPCLの異常形態から早期口腔癌を検出してきた。今回、口腔外科学講座の薬師寺孝助教の指導のもと、拡大内視鏡を用いて各疾患におけるIPCLの形態を分類し、口腔粘膜疾患のスクリーニングを試みると共に、切除標本の健常口腔粘膜から上皮異形成、扁平上皮癌に至る領域のIPCL変化の3次元構築画像を作成し、各病態におけるIPCLの血管径や密度などについて比較検討することで粘膜の悪性化に伴うIPCL形態変化について報告した。拡大内視鏡検査は従来まで行ってきたヨード検査や病理組織診といった侵襲的検査と比較して、非侵襲的なスクリーニング方法であり、患者に苦痛なく検査が行えることが利点の一つとしてあげられる。今回の研究により、早期口腔癌のスクリーニング検査の一つとして、実際の臨床現場での応用が期待される。

渡部大学院生は「low-grade dysplasiaを伴う口腔白板症の臨床統計的検討」の演題で発表を行っ



受賞した関根大学院生：平成24年1月27日(金)、大宮ソニックシティ

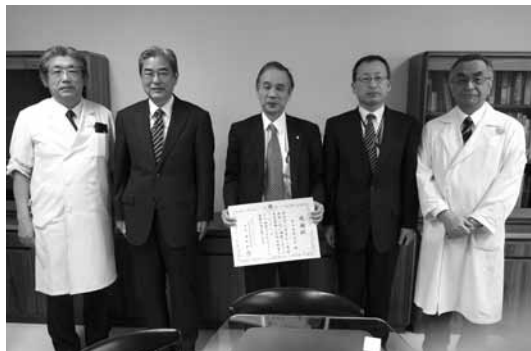
た。口腔癌の治療成績向上のためには早期発見、早期治療が必要となってくる。口腔癌は上皮性異形成 (dysplasia) を伴う前癌病変から上皮内癌を経て浸潤癌へ移行すると考えられている。つまり前癌病変の段階での適切な対応が口腔癌の予防的見地からも非常に重要となる。今回、口腔外科学講座の野村武史講師の指導のもと、癌化能は低いと考えられている low-grade dysplasia を伴う口腔白板症の特徴と悪性化との関連に着目し報告を行った。今後は悪性化した症例に対して遺伝子解析を行う予定である。臨床へフィードバックできる研究であり、一層の発展が期待される。



受賞した渡部大学院生：平成24年1月27日(金)、大宮ソニックシティ

## ■千葉西警察署から本学への感謝状贈呈式

平成24年2月7日(火)千葉校舎学長室において、千葉西警察署からの感謝状贈呈式が催された。今回は、千葉西警察署から田中和夫署長が来校され、本学に対して、日頃からの警察業務への理解と協力に感謝の意を表し、井出吉信学長に感謝状が贈呈された。



感謝状贈呈式後の記念撮影：平成24年2月7日(火)、千葉校舎学長室

## ■田村亮太初期臨床研修医 第48回日本腹部救急医学会総会研修医優秀賞を受賞

市川総合病院田村亮太初期臨床研修医が、平成24年3月14日(水)、15日(木)両日石川県金沢市(石川県立音楽堂など)にて開催された第48回日本腹部救急医学会総会において研修医優秀賞を受賞した。受賞演題は、「当院でのInterval Laparoscopic Appendectomy (i-LA)の初期成績の検討」(共同演者：松井淳一、平野佑樹、浅原史卓、星本相淳、小川信二、佐藤道夫、安藤暢敏)である。

市川総合病院では、急性虫垂炎に対して従来は急性期に腰椎麻酔によるOpen Appendectomyを施行していたが、平成20年11月よりLaparoscopic Appendectomyを開始し、腫瘍形成性虫垂炎に対しては急性期に手術を回避して炎症消褪後にi-LAを施行するという新しい戦略を導入した。そこで田村研修医は、平成17年1月から23年9月の6年9か月間に行われた急性虫垂炎手術177例をretrospectiveに検討して、腫瘍形成性虫垂炎に対するi-LA施行11例では手術時間、術後入院

期間、術後合併症などで良好な成績であることを明らかにし、研究成果を本学会総会の研修医企画で口演発表し、14日夜の研修医情報交換会において表彰された。

田村研修医が、市川総合病院での2年間と言う短い初期研修期間中に多数の症例をreviewしてまとめた研究成果が学会で認められたことは称賛に価する。彼は今春から脳神経外科医としての道に進むが今後の活躍、発展が期待される。



受賞した田村研修医(右)と松井淳一教授(左)：平成24年3月14日(水)、石川県立音楽堂

## 国際渉外部レポート

### ■台北医学大学口腔医学院学生10名がElective Study Programで来校

平成24年2月20日(月)より2月24日(金)までの1週間、台北医学大学口腔医学院の歯学部5年生10名が本学のElective Study Programに参加するため来学した。

台北医学大学とは平成18年8月より姉妹校関係にある。昨年7月末、両校間での学部学生の初のElective Study Programとして東京歯科大学の第1学年から第3学年までの学生6名が台北医学大学を訪問したことを機に、本学でも台北医学大学の学生を受け入れることとなった。

台北医学大学の学生10名は、19日(日)に市川宿舎に入居し、20日(月)は千葉校舎の学内施設および口腔科学センターを見学した。21日(火)は市川総合病院・口腔外科の外来を見学した。22日(水)、午前中は千葉病院の各科を見学し、午後は各自の希望にしたがって口腔外科学講座、歯科矯正学講座、歯周病学講座に分かれ、外来見学等

を行った。同日夜は、役職者の方々や関連する先生方にお集まりいただき、ホテルスプリングス幕張にて歓迎会が開催された。

23日(木)は、さいかち校舎を含む水道橋校舎および水道橋病院の各科を見学し、午後は、八木由里子国際渉外部員の案内で浅草と六本木を観光し、その後、東京タワーの夜景に歓声をあげた。



井出学長より修了証の授与後、記念撮影：平成24年2月24日(金)、TDCビル5階役員室

最終日の24日(金)は、水道橋校舎において井出吉信学長より修了証を授与された。今回の初めてのElective Study Programは、関係各部署に多大なご協力をいただき、無事終了した。

### ■四川大学華西口腔医学院と姉妹校協定締結

平成24年2月22日(水)水道橋校舎特別会議室において金子 譲理事長、井出吉信学長、四川大学華西口腔医学院 周 学東院長、陳 宇教授列席のもと、両校間で姉妹校関係協定が締結された。

四川大学は中華人民共和国の全国重点大学であり学術的評価の高い総合大学である。また、華西口腔医学院は、わが国での本学同様、歯科医師養成機関として中華人民共和国で最も歴史のある大学であり、今後、学術的交流を中心とした姉妹校としての交流が望まれる。

席上、周院長から華西口腔医学院の紹介があり、所在する四川省成都市が、青い水を湛える九寨溝やパンダ保護区といった世界遺産の観光基地であることがあわせて紹介された。

(国際渉外部部長 佐野 司)



金子理事長、井出学長、四川大学華西口腔医学院周院長、陳教授はじめ本学関係者および本学臨床研修歯科医、第5学年学生が列席した。：平成24年2月22日(水)、水道橋校舎特別会議室

### ■モスクワ国立医科歯科大学インターン2名が研修のため来校

平成24年2月27日(月)より3月9日(金)までの2週間、モスクワ国立医科歯科大学病院のインターン、Filkova Natalia Petrovna (Nataly)さんとKorneeva Ekaterina Sergeevna (Kate)さんの2名が来学した。

平成19年6月に姉妹校協定を締結して以降、モスクワ国立医科歯科大学からのインターンの受け入れ

は今回が初めてであった。歯科保存学分野での新しい技術習得をしたいという希望があり、歯科保存学講座、歯周病学講座、クラウンブリッジ補綴学講座、総合診療科で研修プログラムを準備していただいた。また、小児歯科学講座と歯科麻酔学講座にもお二人への対応にご協力いただいた。

27日(月)に来校したNatalyさんとKateさんは、プログラムの説明を受けた後、千葉校舎を見学し、28日(火)からは、上記の各講座で研修した。マネキンを使用した臨床手技に関する実習や臨床見学などを行い、3月6日(火)に、ホテル・ザ・マンハッタンで開催された学長主催留学生懇親会に参加した。最終日の3月9日(金)に、井出吉信学長より修了証を授与され、無事2週間の日程を終えた。



研修中のNatalyさんとKateさん：平成24年3月2日(金)、千葉病院

### ■第15回学長主催留学生懇親会開催

平成24年3月6日(火)午後6時より、ホテル・ザ・マンハッタンにおいて、第15回 学長主催留学生懇親会が開催され、役職者の方々、外国人留学生・研究者、指導教員、国際渉外部運営委員、留学生関連業務を行う事務職員のほか、平成23年度に英語関連行事で活躍した学生を含む総勢31名が参加した。今回は、短期研修で来校中のモスクワ国立医科歯科大学病院インターンのFilkova Natalia Petrovna (Nataly)さんとKorneeva Ekaterina Sergeevna (Kate)さんのほか、HRCのPF、Dr. Sultan Zeb Khan (パキスタン)とDr. Sobhan Ubaidus (バングラデシュ)、学部学生の蔡 涵雅さん(5年・台湾)、劉 文蓉さん(4年・台湾)、姜 東勲君(4年・韓国)の、5ヶ国7名の外国人留学生が出席した。

佐野 司国際渉外部長の司会のもと、まず

井出吉信学長のご挨拶と井上 孝大学院研究科長の乾杯の辞をいただいた。その後、留学生は日本語を交えながら、本学の学生は英語で、順番にスピーチを行った。NatalyさんとKateさんは、ロシアの歌と踊りを披露した。また、3月末で退職する八木由里子国際渉外部員に花束が贈られ、橋本正次教授が閉会の辞を述べられた。最後に、井出学長を囲んで母国の国旗を手にした留学生らと参加者が記念撮影を行い、和やかな雰囲気での散会となった。



出席者全員で記念撮影：平成24年3月6日（火）、ホテル・ザ・マンハッタン

## 学生会ニュース

### ■第117期卒業生謝恩会

第117期卒業生謝恩会は、平成24年3月16日（金）午後6時より、ホテルニューオータニ幕張2階「鶴の間」において開催された。

総合司会の鈴木克彦君と阿部玲子さんの開会の辞により幕を開けた本会は、伊藤泰隆謝恩会実行委員の挨拶、金子 譲理事長、井出吉信学長、矢崎秀昭同窓会会長の祝辞、鳩貝尚志父兄会会長の謝辞、乾杯の発声で声高らかに乾杯し歓談に入った。歓談途中に井出学長よりデンツブライ賞受賞者が発表され石川宗理君、奥原優美さんに手渡された。

続いて、在学中に117期生の修学指導を担当したクラス主任並びに副主任の先生方に感謝の花束贈呈が代表学生より行われ、それに応えて、歴代の学年主任を務めた池上健司先生、高際 睦先生、加藤哲男先生、田崎雅和先生、末石研二先生からそれぞれ卒業生に向け思い出話や心温まる御礼の言葉が贈られた。

会の後半には、石川宗理クラス委員長よりクラス会の名称が「創絆会」と発表された。

「このクラス会名は、117期一人一人が協力し目標に向かって行けるようにと皆で決めました。ちょうど一年前に東日本大震災があり、より人と人との絆の大切さを感じることができたこと。そして、この震災を風化させない。」ようにという願いを込めたクラス会名となった。

今年の謝恩会は例年と少し趣が変わり、歓談している先生方や保護者の方からインタビュー形式

で一言ずつお祝いの言葉を頂き、大変盛り上がった。

謝恩会の最後は毎年の恒例となった学年主任・副主任と卒業生全員が登壇し、参加者全員での校歌斉唱をした。謝恩会委員長の清水耐我君による閉会の辞の挨拶で午後8時に閉会となった。



恩師と卒業生全員で校歌の大合唱：平成24年3月16日（金）、ホテルニューオータニ幕張



閉会にあたり参会者へ謝辞を述べる謝恩会実行委員長の清水君：平成24年3月16日（金）、ホテルニューオータニ幕張

### ■第117期卒業生から大学に卒業記念品贈呈

第117期生からの卒業記念品として、新水道橋校舎竣工時の備品費用として金50万円が大学に寄贈された。平成24年3月16日(金)、第117回卒業証書・学位記授与式終了後に行われた記念品贈呈式において、卒業生代表の清水耐我君から井出吉信学長に目録が手渡された。

### ■第44回全日本歯科学生総合体育大会 スキー部門結果

第44回全日本歯科学生総合体育大会スキー部門は、平成24年3月14日(水)から18日(日)まで、



滑走する木村君(5年)：平成24年3月18日(日)、群馬県・かたしな高原スキー場

群馬県かたしな高原スキー場にて行われた。本学からは、スキー部員12名が大会に出場した。男子では、木村翔馬君(5年)がスーパー大回転・大回転競技に出場して優勝に輝き、男子個人総合で第9位に入る健闘を見せた。また、女子では、薮下雅子さん(6年)が大回転競技に出場して第8位、石彩記子さん(2年)が回転競技に出場して第6位に入賞した。総合成績は、男子6位、女子6位で団体総合6位という結果となった。



戦いを終え全員笑顔で記念撮影：平成24年3月18日(日)、群馬県・かたしな高原スキー場

## 図書館から

### ■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

佐藤 亨 編 歯科補綴学(新・歯科衛生士教育マニュアル), クインテッセンス出版, 2012

井上 孝, 松坂賢一著 口腔医療に必要な臨床検査, デンタルダイヤモンド社, 2012

阿部伸一[ほか] 著 今後の難症例を解決する総義歯補綴臨床のナビゲーション, クインテッセンス出版 2012

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、図書館へ、ご一報くださいますようよろしくお願いいたします。

### ■森山徳長先生より洋書の寄贈

平成24年2月14日(火) 森山徳長先生(昭和25年卒)より洋書77冊が寄贈された。これらの洋書は森山先生が長年に渡り、収集された歴史的な歯科の貴重な洋書である。図書館資料として大切に利用に供したい。

### ■医学文献検索講習会(PubMed応用編)を開催

平成24年2月6日(月)、7日(火)の2日間、PubMedを用いた医学文献検索講習会を図書館2階グループ学習室にて開催した。今回はPubMedのAdvanced SearchやLimits機能、MeSHデータベースなどを利用した応用的な検索方法を中心に、例題を用いて実習形式で行った。2日間で18名の参加があり、講習会の内容について尋ねたアンケートでは参加者全員に「役に立つ」「大変役に立つ」と回答頂き、好評のうちに終了した。

## ■リポジトリ登録2,000件目記念インタビューを実施

東京歯科大学学術機関リポジトリ登録2,000件目を記念して、市川総合病院消化器内科の岸川 浩講師にインタビューを行った。登録2,000件目となった論文の内容に関して、現在進行中の研究について、機関リポジトリやオープンアクセスについてお話を伺った。インタビューの詳しい内容は東京歯科大学学術機関リポジトリのウェブサイトにて紹介されている。

・東京歯科大学学術機関リポジトリ  
(<http://ir.tdc.ac.jp/>)

## ■さいかち坂校舎への図書室移転について

平成24年3月27日(火)に千葉校舎図書館より搬出作業が行われ、翌日28日(水)にさいかち坂校舎図書室へ搬入となった。教養図書7,471冊、専門図書389冊、合計7,860冊の図書の移転作業が終了した。

# 歯科衛生士専門学校ニュース

## ■第61回卒業証書授与式挙行

第61回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は、平成24年3月9日(金)午後1時より、千葉校舎講堂において、厳粛な雰囲気の中で挙行された。

式は杉山哲也教務部長が司会を務め、開式の辞に始まり、国歌斉唱、高橋俊之副校長による学事報告の後、石井拓男校長から41名の第61期卒業生ひとりひとりが緊張の面持ちで卒業証書を授与された。続く褒賞授与では、成績がもっとも優秀であった小野柚美子さんに学校長賞が、佐藤裕美さんを代表として、佐久間麻衣、高橋希望、中村円香、鏝田絢子さんに優等賞が授与された。さらに、3年間無遅刻・無欠席でよく勉学に励んだことを讃え、高橋希望さんとともに、青山知世、小野柚美子、栗田依澄、後藤麻菜香、齋藤友紀子、佐藤裕美、那須野有沙、早川瑞貴、鏝田絢子、渡辺久美子さんに皆勤賞が、また、梅田美和さんをはじめ、川上早紀、田村直美、布施あゆみ、三上香澄、宮脇あずさ、山口英美さ

んに精勤賞が授与された。また、学外からの褒章として、千葉県県知事賞が小野柚美子さんに、社団法人日本歯科衛生士会学生部員会長表彰が佐藤裕美さんに授与された。

石井校長の告辞に続き、来賓としてご臨席頂いた金子 譲東京歯科大学理事長のご祝辞を頂くと共に、井出吉信東京歯科大学学長、市川明美東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会会長からご祝辞を頂いた。在校生代表の2年生、岡田理恵子さんから送辞を受けた後、卒業生の代表として小野柚美子さんが3年間の思いを込めて答辞を述べた。「衛生士学校校歌」と「蛍の光」を厳かに斉唱し、第61回東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式は終わり、卒業生たちは歯科界へと巣立っていった。



石井校長より卒業証書を授与される卒業生：平成24年3月9日(金)、千葉校舎講堂



答辞を述べる卒業生：平成24年3月9日(金)、千葉校舎講堂



引き続き行われた記念品贈呈式では、市川同窓会長から代表の佐久間麻衣さんに袱紗が手渡された。また、在校生の片海果菜さんからアロマポットと花が卒業生の中村円香さんに贈られ、卒業生を代表して、鎌田絢子さんから後輩たちのためにシュレッダーと文具一式が学校へ贈呈された。最後に、3年間一緒に学んだ仲間と共に、恩師を囲んで卒業記念の集合写真撮影が行われ第61期卒業式のすべての行事が終了した。



晴れて卒業を迎え、笑みをうかべる卒業生：平成24年3月9日（金）、千葉校舎講堂



恩師と共に卒業記念の集合写真：平成24年3月9日（金）、千葉校舎講堂

## 学事報告

東京歯科大学歯科衛生士専門学校  
副校長 高橋 俊之

現在、本校に在籍する学生の数は、130名で、これに対し教授の任にあたる教員の数は、124名であります。

本日、第61回卒業証書授与式において卒業証書を授与される者は、41名であります。これを本校創立以来の卒業生に合わせますと、総数2,239名となります。

平成24年3月9日

## 告 辞

東京歯科大学歯科衛生士専門学校  
校 長 石井 拓男

本日ここに、東京歯科大学理事長、東京歯科大学学長、東京歯科大学歯科衛生士専門学校同窓会長をはじめ、多数のご来賓をお迎えして、また、保護者の皆様にご列席いただき、第61回卒業証書授与式を挙行致しますことをこころからお喜び申し上げます。

卒業生の皆様、ほんとうにおめでとう御座います。

この3年間は皆様にとってどのような3年であったでしょうか。

それぞれ、今思い出すと多くのことがあったと思います。臨床実習の日々はもちろん、最後の1年間、ことに最後の数ヶ月は、生涯の思い出に残る濃密な時間であったのではないのでしょうか。その時を経ての本日の卒業式の感激と喜びは大きなものと存じます。

そして、この日を待ち望んでおられた保護者の皆様方には、お子様の晴れの姿をご覧になり、感慨もまたひとしおのことと存じます。

さて、歯科衛生士となる卒業生の皆様を待ち望んでいる歯科界、そして患者・国民の状況は大きく変わりました。その象徴的なことは、昨年から今年にかけて厚生労働省で検討された多くの審議会・検討会で、幾度と無く歯科衛生士の重要性が取り上げられたことです。歯科衛生士という職種の名前が、厚生労働省の場でこれほど取りざたされたことはこれまでに無いことでした。歯科衛生士にとって、そして歯科界にとって歴史的な年であったと思います。

歯科界にとってもう一つ画期的であったことは、歯科口腔保健の推進に関する法律が、昨年8月に制定されたことです。近代国家となったわが国で、医科疾患に関する法律は明治初年に制定されました。これと比べますと、実におよそ140年の後に歯科保健固有の法律が作られたこととなります。

歯科保健についての新たな法律と、歯科衛生士に関する厚生労働省の議論の成果が、まもなく国民への歯科保健医療の新たな提供体制となって現れてくるものと思います。その実質的な提供者として、皆様は臨床の場に出ることになるのです。

今年の冬は寒さが厳しく、校庭の梅や桜も蕾を固くして春を待っていました。

しかし、ほころばぬ ままの花など あるべしや です。

卒業される皆様が、東京歯科大学歯科衛生士学校で学び卒業したことを誇りとし、歯科衛生士としての大輪の花を咲かせ、そして、国民の健康と福祉に大いに貢献されますことを期待して告辞といたします。

**■第21回歯科衛生士国家試験実施**

平成24年3月4日(日)第21回歯科衛生士国家試験が全国の試験場で一斉に実施された。

本校の卒業予定者41名全員が、東京試験場の日本大学藝術学部(江古田キャンパス)にて受験した。試験は4肢択一および4肢択二のマークシート方式で行われ、午前110問(3時間)、午後110問(3時間)の計220問が出題され、午後4時に終了した。結果は3月28日(水)午後2時に厚生労働省ならび

に歯科医療研修振興財団にて発表され、本校の受験者41名は全員合格した。全国の受験者総数3,661名のうち、合格者は3,507名で、合格率は95.8%であった。受験者数は、3年制への完全移行のため昨年と比べて大幅に減少し、本年度の合格者数も少なかった。新卒と既卒を含めた合格率が100%の学校は、全国の142校のうち73校(51.4%)であった。

### 平成24年度第1学年時間割表

組 時間 曜日		第1学年 Aクラス					第1学年 Bクラス					
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
前期	9:00 ~ 10:25	1	基礎物理Iβ 基礎化学I	歯科医学概論 (歯科医学史) コミュニケーション学	基礎生物I 一般生物I	基礎物理Ia 一般物理I	一般化学I	基礎物理Iβ 基礎化学I	歯科医学概論 (歯科医学史) コミュニケーション学	基礎生物I 一般生物I	基礎物理Ia 一般物理I	一般化学I
	10:35 ~ 12:00	2	医療法学	健康学 コミュニケーション学	英語I	自然科学 演習I	独語I	数学I	健康学 コミュニケーション学	心理学	独語I	英語I
	13:00 ~ 14:25	3	数学I	社会福祉	心理学	英語II	体 育	医療法学	独語I	実用日本語	自然科学 演習I	体 育
	14:35 ~ 16:00	4	経済学 哲学	独語I	実用日本語	情報科学		経済学 哲学	社会福祉	英語II	情報科学	
	16:10 ~ 17:30	5	理科補習	/	教 養 セミナー	補習	/	理科補習	/	教 養 セミナー	補習	/
	後期	9:00 ~ 10:25	1	数学I	英語I	英語II	基礎物理IIa 一般物理II	生物II	英語II	理科実習	心理学	基礎物理IIa 一般物理II
10:35 ~ 12:00		2	歯科基礎 数 学	美術	心理学	生命倫理	生物の 構造と機能	数学I	英語I		自然科学 演習II	生物の 構造と機能
13:00 ~ 14:25		3	人類学	理科実習	独語II 中国語 韓国語	自然科学 演習II	体 育	歯科基礎 数 学	美術	独語II 中国語 韓国語	生命倫理	体 育
14:35 ~ 16:00		4	一般化学II		人 間 生物学	独語II 中国語 韓国語		一般化学II	人類学	人 間 生物学	独語II 中国語 韓国語	
16:10 ~ 17:30		5	補習	教 養 セミナー	基礎物理IIβ 基礎化学II	理科補習	/	補習	教 養 セミナー	基礎物理IIβ 基礎化学II	理科補習	/

## 平成24年度 第2学年・第3学年・第4学年時間割表

学年 時間		第2学年					第3学年					第4学年					
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	
前 期	9:00 ~ 10:25	1	細胞分子 生物学	A医療統計 B生命現象と物質実習	生理学	口腔解剖学	生体の科学	口腔微生物学	A微生物学講義・実習 B生理学講義・実習	発生病態学	歯内療法学	口腔病理学Ⅰ	歯科矯正学講義・実習	ブラジル 補綴学	有床義歯 補綴学	口腔外科学	小児歯科学講義・実習
	10:35 ~ 12:00	2	細胞分子 生物学	A科学英語	生理学	口腔解剖学	生物の構造と 機能	保存修復学	有床義歯 補綴学	法歯学	生化学	薬理学講義・実習	歯科矯正学 講義・実習	口腔外科学	有床義歯補綴学 講義・実習	口腔外科学	小児歯科学
	13:00 ~ 14:25	3	歯科 基礎科学	A生命現象と物質実習 B科学英語	口腔生理学	口腔解剖学講義・実習	B医療統計 A歯科学英語	衛生学	補綴学	歯科理工学	病理学	生化学講義・実習 薬理学講義・実習	歯科矯正学 講義・実習	歯科放射線学	有床義歯補綴学 講義・実習	歯周療法学	小児歯科学
	14:35 ~ 16:00	4	組織学	B歯科医学英語 A生命現象と物質実習	口腔生理学	口腔生理学講義・実習	コミュニケーション学Ⅱ	薬理学	A生理学講義・実習 B微生物学講義・実習	歯科理工学講義・実習	病理学講義・実習	薬理学講義・実習	歯科麻酔学 講義・実習	口腔衛生学	口腔衛生学講義・実習	メデイカル メデイシン	臨床検査学
	16:10 ~ 17:30	5		コミュニケーション学Ⅱ				英語講義	歯科医学	英語講義	歯科理工学講義・実習	病理学講義・実習	内科学	内科学	隣接医学	隣接医学	外科学
後 期	9:00 ~ 10:25	1	A生理学講義・実習 B組織学講義・実習	微生物学	解剖学講義・実習	歯科理工学	保存修復学	歯科矯正学	有床義歯 補綴学	総論 歯科補綴学	衛生学・ 口腔衛生学	医療倫理・医療安全	歯科医療管理 (社会医療制度)	クラウン 補綴学	社会歯科学	歯周療法学講義・実習	口腔インプラント学 講義・実習
	10:35 ~ 12:00	2	A生理学講義・実習 B組織学講義・実習	微生物学	解剖学講義・実習	歯科理工学	保存修復学	歯科矯正学	有床義歯 補綴学	総論 歯科補綴学	衛生学・ 口腔衛生学	医療倫理・医療安全	歯科医療管理 (社会医療制度)	クラウン 補綴学	社会歯科学	歯周療法学講義・実習	口腔インプラント学 講義・実習
	13:00 ~ 14:25	3	A組織学講義・実習 B生理学講義・実習	生化学	解剖学講義・実習	口腔組織学講義・実習	薬理学	保存修復学講義・実習	有床義歯補綴学講義・実習	総論 歯科補綴学	衛生学・ 口腔衛生学	医療倫理・医療安全	歯科医療管理 (社会医療制度)	クラウン 補綴学	社会歯科学	歯周療法学	口腔インプラント学 講義・実習
	14:35 ~ 16:00	4	A組織学講義・実習 B生理学講義・実習	生化学	解剖学講義・実習	口腔組織学講義・実習	薬理学	保存修復学講義・実習	有床義歯補綴学講義・実習	総論 歯科補綴学	衛生学・ 口腔衛生学	医療倫理・医療安全	歯科医療管理 (社会医療制度)	クラウン 補綴学	社会歯科学	歯周療法学	口腔インプラント学 講義・実習
	16:10 ~ 17:30	5					病理学	保存修復学講義・実習	有床義歯補綴学講義・実習	総論 歯科補綴学	衛生学・ 口腔衛生学	医療倫理・医療安全	歯科医療管理 (社会医療制度)	クラウン 補綴学	社会歯科学	歯周療法学	口腔インプラント学 講義・実習

## 平成24年度 学年暦

年 月 日	曜	行 事 予 定
平成24年 4月 2日	月	5年生オリエンテーション・登院器材刻印・検査 5年生登院式
5日	木	入学式
6日	金	新入生オリエンテーション・学内見学
9日	月	2・3・4年生オリエンテーション 1・2・3・4年生前期授業開始
5月 1日	火	} 1～4年休講日(4/28～5/6連休)
2日	水	
6月 5日	火	6年生第1回総合学力試験(6日(水)まで) (予定)
7日	木	1年生健康診断
15日	金	実験動物飼養祭(千葉校舎) (3年生) (予定)
20日	水	} 新入生学外セミナー
22日	金	
7月 2日	月	振替授業(木曜日分)
10日	火	振替授業(金曜日分)
11日	水	夏期休暇 開始
8月 31日	金	夏期休暇 終了
9月 1日	土	5年生第1回総合学力試験
3日	月	1・2・3・4年生授業再開
14日	金	6年生第2回総合学力試験(4日(火)まで) (予定)
20日	木	1・2・3・4年生前期授業終了 1・3・4年生前期定期試験(28日(金)まで) 2年生前期定期試験(27日(木)まで)
28日	金	解剖慰霊祭(水道橋校舎) (2年生) (予定)
10月 1日	月	1・2・3・4年生後期授業開始
24日	水	6年生第3回総合学力試験(25日(木)まで) (予定)
25日	木	振替授業(金曜日分)
26日	金	} 第44回東歯祭(準備・後片付けを含む)
29日	月	
30日	火	振替授業(月曜日分)
11月 10日	土	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、 編入学A、学士等特別選抜A (予定)
21日	水	振替授業(金曜日分)
12月 17日	月	} 1・2・3・4年生前期追・再試験
20日	木	
25日	火	} 冬期休暇
平成25年 1月 7日	月	
8日	火	1・2・3・4年生授業再開
15日	火	6年生第4回総合学力試験(9日(水)まで) (予定)
19日	土	振替授業(月曜日分)
29日	火	大学入試センター試験(20日(日)まで) (予定) 1・2・3・4年生後期授業終了
2月 2日	土	一般入学試験(I期)、センター利用入試(I期) (予定)
6日	水	1・2・3・4年生後期定期試験(14日(木)まで)
12日	火	本学創立記念日
15日	金	4年生総合学力試験
16日	土	5年生第2回総合学力試験
18日	月	3年生総合学力試験
19日	火	4年生共用試験(CBT)
20日	水	2年生総合学力試験
21日	木	1年生総合学力試験
24日	日	4年生共用試験(OSCE) (前日23日テストラン)
28日	木	1・2・3・4年生後期追・再試験(3月5日(火)まで)
3月 2日	土	5年生総合学力追・再試験
9日	土	一般入学試験(II期)、センター利用入試(II期)、 編入学B、学士等特別選抜B 試験(予定)
11日	月	3・4年生総合学力追・再試験
12日	火	1・2年生総合学力追・再試験
13日	水	4年生共用試験(CBT)追・再試験
15日	金	第118回卒業式(予定)

## 人物往来

### ■国内見学者来校

#### 千葉校舎・千葉病院

○医療法人鳳生会 藤リハビリテーション学院(学生66名、教員2名)

平成24年2月6日(月)、7日(火)解剖学見学

平成24年2月8日(水)、9日(木)、13日(月)から15日(水)5日間 解剖実習見学

○太陽歯科衛生士専門学校(学生73名、教員3名)

平成24年2月10日(金)解剖学実習室、千葉病院内

○八千代リハビリテーション学院(学生175名、病院スタッフ26名)

平成24年2月16日(木)、17日(金)、20日(月)解剖学実習室

○長野県衛生専門学校(学生17名、教員2名)

平成24年2月20日(月)解剖学教室、千葉病院内

○静岡県立大学短期大学部(学生45名、教員2名)

平成24年2月22日(水)解剖学教室、千葉病院内

○学校法人村上学園 専門学校日本医科学大学校(学生69名、教員7名)

平成24年2月23日(木)解剖学教室(実習室)、解剖学標本室

○太陽歯科衛生士専門学校(学生47名、教員3名)

平成24年2月24日(金)解剖学実習室、千葉病院内

○国際医療福祉専門学校(学生53名、教員3名)

平成24年2月29日(水)から3月2日(金)解剖学実習室

○東京医療専門学校(学生35名、教員1名)

平成24年3月5日(月)から8日(木)解剖学教室

○千葉・柏リハビリテーション学院(学生70名、教員4名)

平成24年3月13日(火)、14日(水)解剖学実習室

○埼玉県立常盤高等学校(学生82名、教員4名)

平成24年3月15日(木)解剖学実習室、解剖学標本室

#### 市川総合病院

○富士フィルムRIファーマ株式会社(職員1名)

平成24年3月21日(水)、22日(木)放射線科

### ■海外出張

○石上恵一教授(スポーツ歯学)

慶熙大学崔大均教授の退任式での特別講演演者として参加のため、また延世大学Moon-Kyuchung教授との共同研究の進捗状況の打ち合わせのため、平成24年2月17日(金)から21日(火)まで韓国・ソウルへ出張。

○佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)

テキサス大学サンアントニオ校での研究打合せ、国際歯科審美学会(IFFT)総会への出席およびThe 60th American Academy of Fixed Prosthodontics

への参加のため、平成24年2月20日(月)から27日(月)まで、アメリカ・サンアントニオ、シカゴへ出張。

○櫻井 薫教授(有床義歯補綴学)

The 84th Annual Scientific Meeting of American Prosthodontic Societyに参加のため、平成24年2月22日(水)から26日(日)まで、アメリカ・シカゴへ出張。

○金子 讓理事長(法人)

国際歯科麻酔学連合(IFDAS)理事会・総会及び第13回国際歯科麻酔学会議(IFDAS 2012)出席のため、平成24年2月27日(月)から3月2日(金)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○小鹿恭太郎助教(歯科麻酔学)

第13回国際歯科麻酔学会議(IFDAS 2012)において学会発表を行うため、平成24年2月28日(火)から3月4日(日)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○神戸宏明大学院生(歯科麻酔学)

第13回国際歯科麻酔学会議(IFDAS 2012)において学会発表を行うため、平成24年2月28日(火)から3月4日(日)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○川口 潤大学院生(歯科麻酔学)

第13回国際歯科麻酔学会議(IFDAS 2012)において学会発表を行うため、平成24年2月28日(火)から3月4日(日)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○縣 秀栄講師(市病・麻酔科)

The 13th International Dental Congress on Anesthesia Sedation, and Pain Control (IFDAS 2012)において学会発表を行うため、平成24年2月28日(火)から3日(土)まで、アメリカ・ハワイへ出張。

○石田 瞭講師(摂食・嚥下リハビリテーション)

The 20th Dysphagia Research Society Meetingにおける情報収集、意見交換のため、平成24年3月6日(火)から11日(日)まで、カナダ・トロントへ出張。

○一戸達也教授(歯科麻酔学)

2012 Annual Meeting of the Society of Taiwan Oral and Maxillofacial Anesthesiologyにおける講演および実習のため平成24年3月17日(土)から20日(火)まで台湾・台北へ出張。

○澁川義宏准教授(水病・口腔健康臨床科学)

第41回AADR (American Association for Dental Research)学会参加および演題発表、Eiki Koyama准教授(フィラデルフィア小児病院)との共同研究打合せのため平成24年3月20日(火)から28日(水)までアメリカ・タンパ、フィラデルフィアへ出張。

# 大学日誌

## 平成24年2月

		13 (月)	医療安全研修会 臨床研修歯科医症例報告会(水病)
1 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 防火・防災安全自主点検日	14 (火)	1年生総合学力試験[於:水道橋校舎] 褒章受賞者選考委員会 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会
2 (木)	一般入学試験(I期)・大学入試センター利用 試験(I期)[於:東京・大阪・福岡会場] 感染制御委員会(市病)		歯科衛生士専門学校教員会 褥瘡対策委員会(市病) 医療ガス取扱い勉強会(市病)
3 (金)	歯科衛生士専門学校1年生後期授業終了	15 (水)	3年生総合学力試験[於:水道橋校舎] 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 衛生委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 CPC(市病)
4 (土)	一般入学試験(I期)・大学入試センター利用 試験(I期)合格発表 第105回歯科医師国家試験[～5日] 講座主任教授会(臨時)	16 (木)	2年生総合学力試験[於:水道橋校舎] 千葉校舎課長会 業務連絡会 高度・先進医療委員会 部長会(市病) 市川市医師会・歯科医師会員との合同講演会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)
6 (月)	1～4年生後期定期試験[～10日] 総合講義検討委員会 千葉病院臨床研修管理小部会 歯科衛生士専門学校1・2年生後期試験 [～17日] 会計監査[～10日](市病)		4年生共用試験(CBT)[於:水道橋校舎] 5年生第2回総合学力試験[於:水道橋校舎] 大学院入学試験(Ⅱ期) 千葉病院研修管理委員会 午後のリサイクル(市病) 患者サロン(市病)
7 (火)	教務部(課)事務連絡会 口腔健康臨床科学講座会(水病)	20 (月)	医療連携委員会 第110回歯科医学教育セミナー 機器等安全自主点検日 公認会計士中間監査[～22日](水道橋病院・ 法人事務局)
8 (水)	看護部運営会議(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病)	21 (火)	一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用 試験(Ⅱ期)・編入学B・学士等選抜B願書 受付開始[～3/6]
9 (木)	カルテ指導委員会 手術室運営委員会(市病) がん連携フォーラム(市病) 放射線療法の推進に関する講演会(市病)		
10 (金)	大学院入学試験(Ⅱ期)願書締切 大学院運営協議会 ICLS(市病) ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)		
12 (日)	臨床基礎実習に関するワークショップ [於:水道橋校舎]		
13 (月)	公認会計士中間監査[～16日] 4年生総合学力試験[於:水道橋校舎] 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会		



21 (火)	病院合同診療録管理委員会 医療安全管理委員会(市病)	5 (月)	3・4年生総合学力追・再試験[於:水道橋校舎] 臨床研修管理小部会 薬事委員会(市病)
22 (水)	大学院入学試験(Ⅱ期)選考委員会 5年生試験結果発表 看護部運営会議(市病) 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病) 病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病)	6 (火)	1・2年生総合学力追・再試験[於:水道橋校舎] 一般(Ⅱ期)・センター(Ⅱ期)・編入学B・学 士等選抜B願書受付締切 第342回大学院セミナー
23 (木)	平成24年度推薦入学者等の入学前スクリー ニング[於:水道橋校舎] 管理診療委員会(市病) 台北医学大学口腔医学院歯学部5年生水道橋 校舎見学(水病)	7 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 輸血療法委員会 臨床検査部運営委員会 基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会
24 (金)	大学院入学試験(Ⅱ期)合格発表 1・2年生試験結果発表 3・4年生試験結果発表 災害対策実施部会(市病) 理事会(水病)	8 (木)	4年生共用試験(CBT)追・再試験[於:水道橋 校舎] 医療安全研修会 看護部運営会議(市病) 手術室運営委員会(市病)
25 (土)	4年生共用試験(OSCE)テストラン	9 (金)	第61回歯科衛生士専門学校卒業証書授与式 ICLS(市病) ICT委員会(市病) 感染予防対策チーム委員会(水病)
26 (日)	4年生共用試験(OSCE)	10 (土)	一般入学試験(Ⅱ期)・大学入試センター利用 試験(Ⅱ期)・編入学試験B・学士等特別選抜 B [於:水道橋校舎] 停電[非常系](市病)
27 (月)	電子カルテシステム運用管理委員会(市病) NSTカンファレンス・勉強会(市病) 教職員研修会(水病)	12 (月)	4年生共用試験(OSCE)追・再試験 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会
28 (火)	1～4年生後期追・再試験[～3/2] データ管理者会議 第341回大学院セミナー カルテ整備委員会 診療記録管理委員会 口腔ケア普及推進委員会 医療サービスに関する検討会	13 (火)	一般(Ⅱ期)・センター(Ⅱ期)・編入学B・学 士等選抜B合格発表 臨床教授連絡会 講座主任教授会 人事委員会 教養科目協議会 歯科衛生士専門学校教員会 褥瘡対策委員会(市病) 口腔健康臨床科学講座会(水病)
29 (水)	学生部(課)事務連絡会 教養科目協議会	14 (水)	千葉校舎課長会 図書委員会
<b>平成24年3月</b>			
1 (木)	1～4年生後期追・再試験[～2日] 防火・防災安全自主点検日 感染制御委員会(市川) 第2回研修管理委員会(水病)		
2 (金)	大学院運営協議会 平成23年度口腔科学研究センターワー クショップ		
3 (土)	5年生総合学力追・再試験		
4 (日)	学内インターネット回線リプレース作業 (市病)		

14 (水)	歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 救急委員会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)	23 (金)	歯科臨床研修修了式 大学院修了式 災害対策実施部会(市病)
15 (木)	第117回卒業証書授与式予行演習 カルテ指導委員会 業務連絡会 高度・先進医療委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日 部長会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 医療連携プロジェクト委員会(水病) 科長会(水病)	24 (土)	停電[一般系]
		26 (月)	医療連携委員会 第111回歯科医学教育セミナー 診療録管理委員会(電子カルテシステム運用 管理委員会)(市病) NSTカンファレンス(市病) 森下教授退任記念講演会(市病) 教職員研修会(水病)
		27 (火)	薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会
16 (金)	臨床実習プログレス期間開始[~ 4/27] 第117回卒業証書授与式	28 (水)	平成24年度新採用者内定者研修[~ 3/30] (市病) 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病) 衛生委員会(水病) データ管理者会議(水病)
17 (土)	午後のリサイクル(市病) 患者サロン(市病)		病院連絡協議会(水病) 診療録管理委員会(水病)
19 (月)	歯科医師臨床研修修了式(水病)	29 (木)	口腔ケア普及推進講演会 理事会(水道橋校舎) 評議員会(水道橋校舎)
21 (水)	大学院研究科委員会(臨時)(予定) 情報システム管理委員会 機器等安全自主点検日 輸血療法委員会(市病) CPC(市病)	30 (金)	防災訓練 平成24年度診療報酬改定説明会 退職者(本務教職員・レジデント)辞令交付 (水病)
22 (木)	講座主任教授会(臨時) 人事委員会、看護部運営会議(市病) 管理診療委員会(市病) 教職員研修会(カルテ指導総括・保険改訂 説明)(水病) 臨床研修(医科・歯科)修了式(市病)	31 (土)	専修科生修了証交付(水病) 患者サービスに関するワークショップ(水病)

### 東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二 椎名 裕  
新谷益朗 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博  
前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹

(平成24年3月現在)



#### 編集後記

2012年3月。千葉での卒業—Graduation。そして、千葉から水道橋への卒業。

117期生の128名、衛生士校61期生の41名、大学院修了の37名、臨床研修を終えた119名…、そして、長い間勤務され退職の日を迎えられた人たち…。1つの区切りとしての卒業はあたらしい何かのはじまり。卒業—Commencement。

かけがえのない出会いとたくさんの思いを胸に、それぞれの一步を踏み出した今、次に会うときにはお互いにどんな道を歩いているのでしょうか。また一緒に会えるといいね、と言いながら、戻ることのない時間の流れ…。

新しい場所で、あらたな出会いが始まります。サクラサク、3月。

第105回歯科医師国家試験に合格し、117期生と既卒者あわせて148名の東京歯科大学の卒業生達が歯科医師として研修を始めました。117期卒業生98.4%、既卒者91.1%という歯学部でトップの合格率の高さはなにを物語るのでしょうか。たくさんの悔しさを味わいながら、お互いに助け合い励まし合いながら、クラスのチームワークでいくつもの壁を乗り越えてきたのでしょうか。チームとして励まし合った卒業生達と、彼らを支えてきた先生方や周りのたくさんのサポーターたちのちかからの賜。

6年間の成長に目を見張ります。あとに続く人たちが、成長する自分自身を信じられるとしたら…。一步前へ。

大震災からひとつの季節がめぐりました。大学のキャンパスのあちらこちらにあった傷跡も今はすっかり修復がおわりました。しかし、壊れたところを直しても違いがわかってしまうように、こころの深いところにできた亀裂は、いつまでも埋めることはできません。それでも尚、癒えない痛みを胸に、次なる試練に対応できる覚悟を持ち、自分で決めた道を、少しずつでも前に向かって、歩んで行くのでしょうか…。Good luck!  
(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「雨上がりの午後の日のカワツザクラ！」

何があったとしても、ひとの営みとはお構いなく、季節はめぐり春が訪れます…。今年のさくらはことばにならないほど綺麗でした。

満開の、桜、3月。  
新しい旅立ちへの、静かで華やかな、饒。